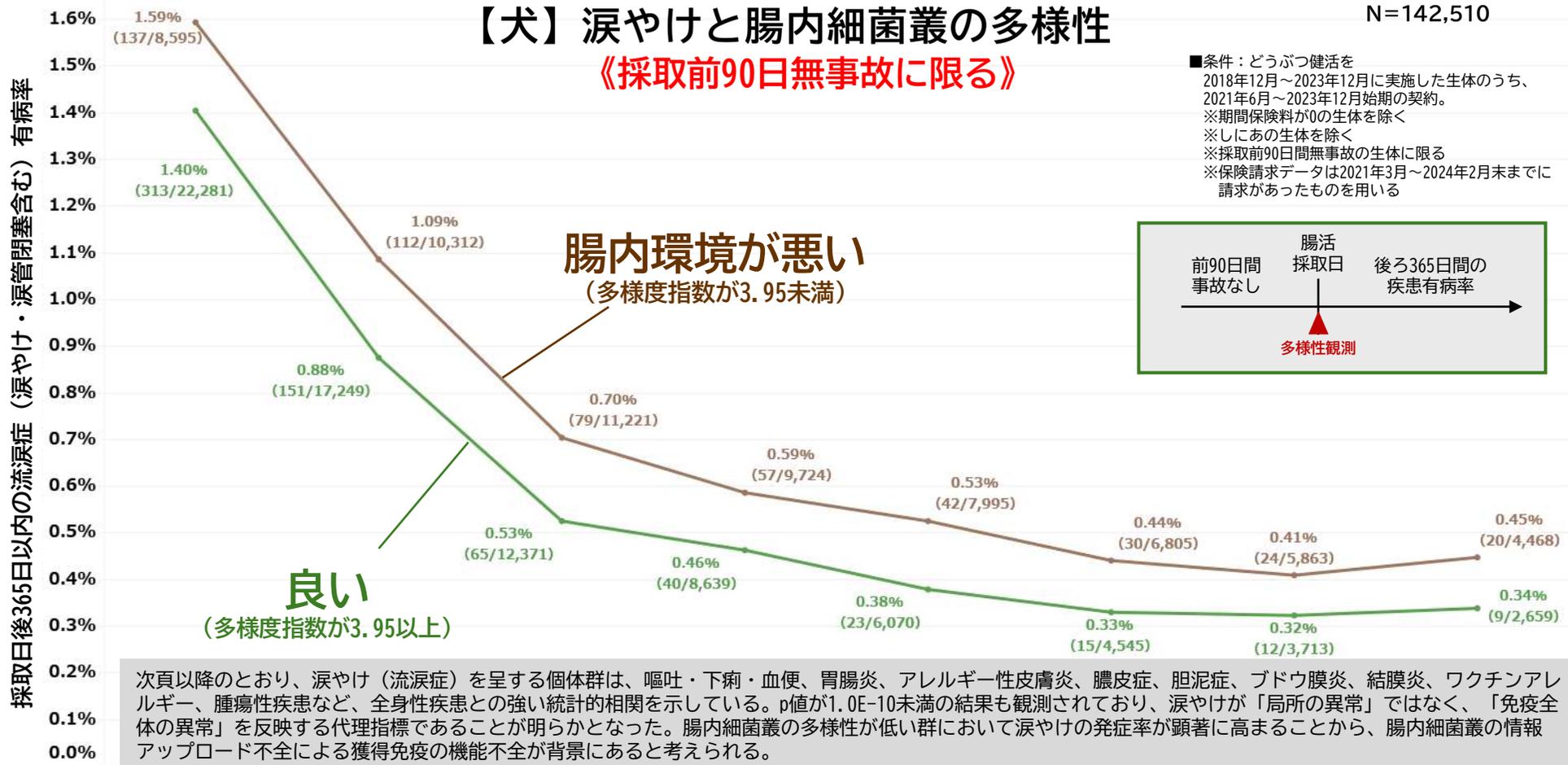


12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン



(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化



カイ二乗検定

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳
p値	0.21	0.082	0.079	0.25	0.21	0.37	0.50	0.48
評価	-	†	†	-	-	-	-	-
リスクレシオ	1.13	1.24	1.34	1.27	1.39	1.33	1.27	1.32
信頼区間 (95%下限)	0.93	0.97	0.96	0.84	0.83	0.71	0.63	0.60
信頼区間 (95%上限)	1.39	1.59	1.86	1.90	2.31	2.47	2.54	2.91

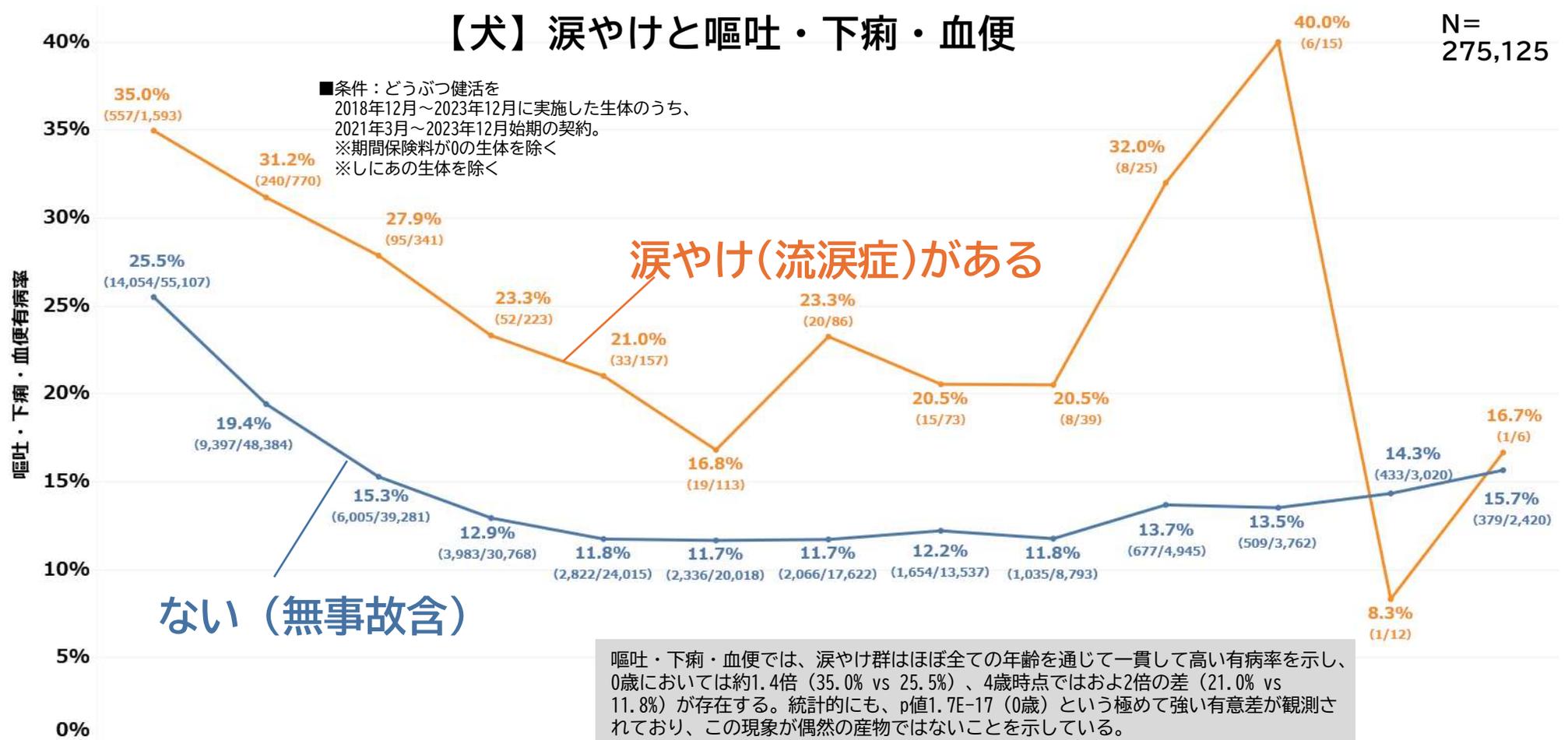
12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン



(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

【犬】涙やけと嘔吐・下痢・血便

N=275,125



カイニ乗検定

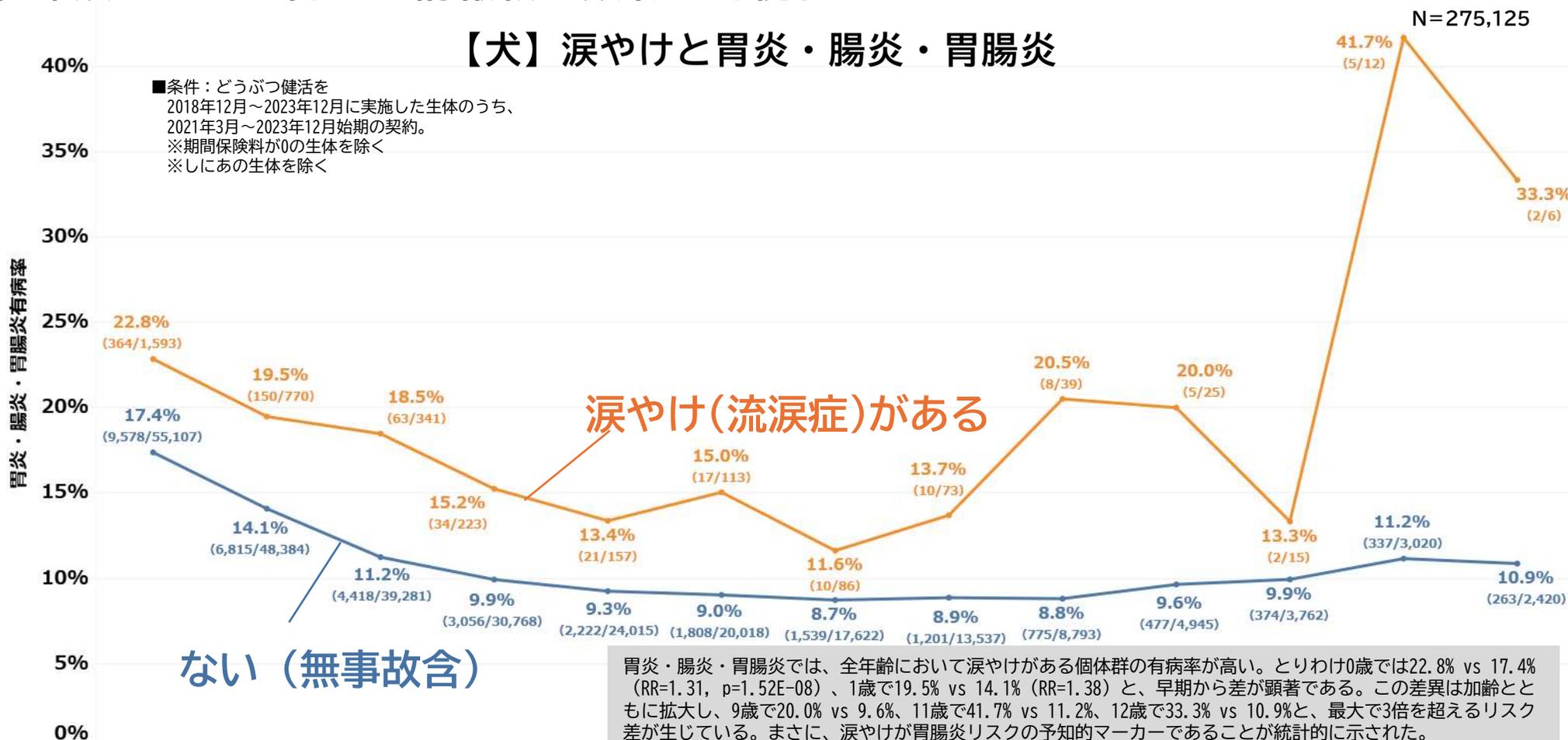
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳
p値	1.7E-17	3.7E-16	1.5E-10	4.5E-06	3.4E-04	0.09	9.4E-04	0.03	0.091	0.008	0.003	0.55	0.95
評価	***	***	***	***	***	†	***	*	†	**	**	-	-
リスクレシオ	1.37	1.60	1.82	1.80	1.79	1.44	1.98	1.68	1.74	2.34	2.96	0.58	1.06
信頼区間 (95%下限)	1.24	1.39	1.45	1.33	1.23	0.88	1.22	0.96	0.81	1.05	1.14	0.08	0.13
信頼区間 (95%上限)	1.51	1.86	2.29	2.44	2.61	2.35	3.23	2.94	3.74	5.20	7.65	4.48	8.86

12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン



(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

【犬】涙やけと胃炎・腸炎・胃腸炎



カイ二乗検定

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳
p値	1.5E-08	2.1E-05	2.7E-05	0.008	0.076	0.026	0.34	0.15	0.010	0.081	0.66	8.6E-04	0.078
評価	***	***	***	**	†	*	-	-	*	†	-	***	†
リスクレシオ	1.31	1.38	1.64	1.54	1.45	1.67	1.33	1.54	2.33	2.07	1.34	3.73	3.07
信頼区間 (95%下限)	1.17	1.16	1.25	1.07	0.91	1.00	0.69	0.80	1.08	0.79	0.31	1.31	0.62
信頼区間 (95%上限)	1.48	1.65	2.15	2.21	2.28	2.78	2.57	3.00	5.00	5.44	5.89	10.66	15.27

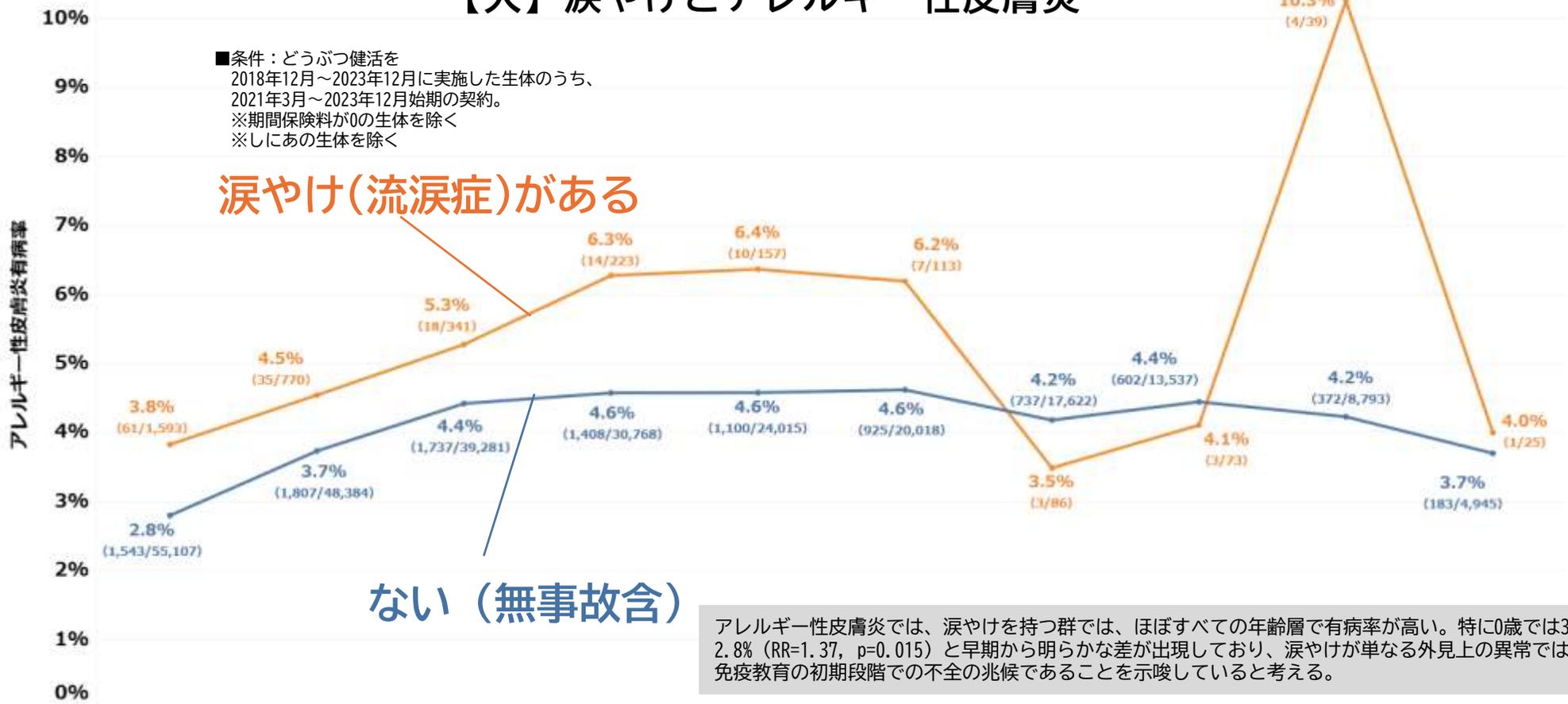
12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン



(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

N=265,890

【犬】涙やけとアレルギー性皮膚炎



カイ二乗検定

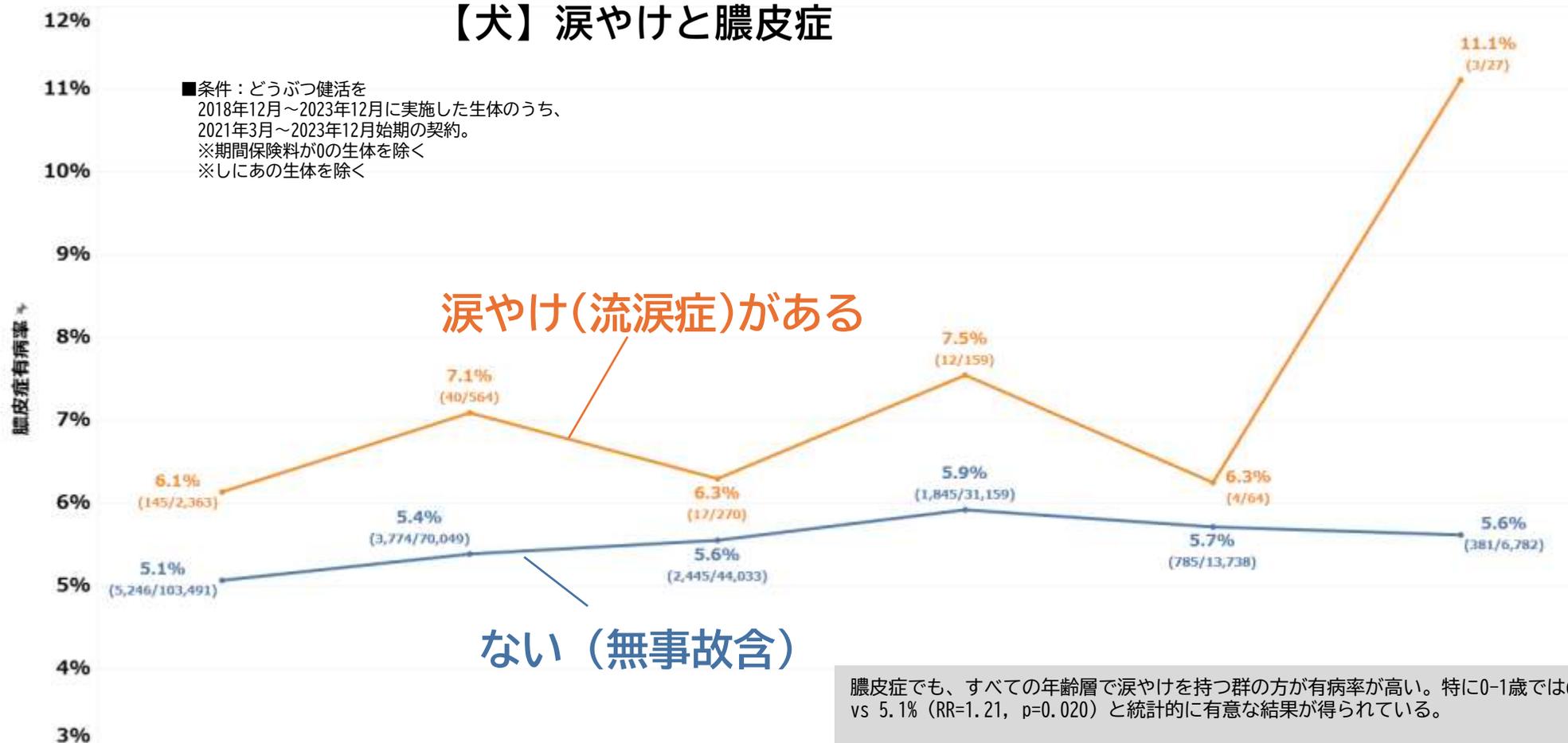
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
p値	0.015	0.24	0.44	0.23	0.29	0.43	0.75	0.89	0.063	0.94
評価	*	-	-	-	-	-	-	-	†	-
リスクレシオ	1.37	1.22	1.19	1.37	1.39	1.34	0.83	0.92	2.42	1.08
信頼区間 (95%下限)	1.05	0.86	0.74	0.80	0.73	0.62	0.26	0.29	0.86	0.15
信頼区間 (95%上限)	1.77	1.71	1.92	2.36	2.64	2.88	2.64	2.94	6.82	8.02

12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン

(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

【犬】涙やけと膿皮症

N=272,699



膿皮症でも、すべての年齢層で涙やけを持つ群の方が有病率が高い。特に0-1歳では6.1% vs 5.1% (RR=1.21, p=0.020) と統計的に有意な結果が得られている。

カイ二乗検定

	0-1歳	2-3歳	4-5歳	6-7歳	8-9歳	10-11歳
p値	0.020	0.075	0.60	0.39	0.85	0.22
評価	*	†	-	-	-	-
リスクレシオ	1.21	1.32	1.13	1.27	1.09	1.98
信頼区間 (95%下限)	1.02	0.95	0.69	0.71	0.40	0.60
信頼区間 (95%上限)	1.43	1.82	1.85	2.30	3.01	6.55

12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン

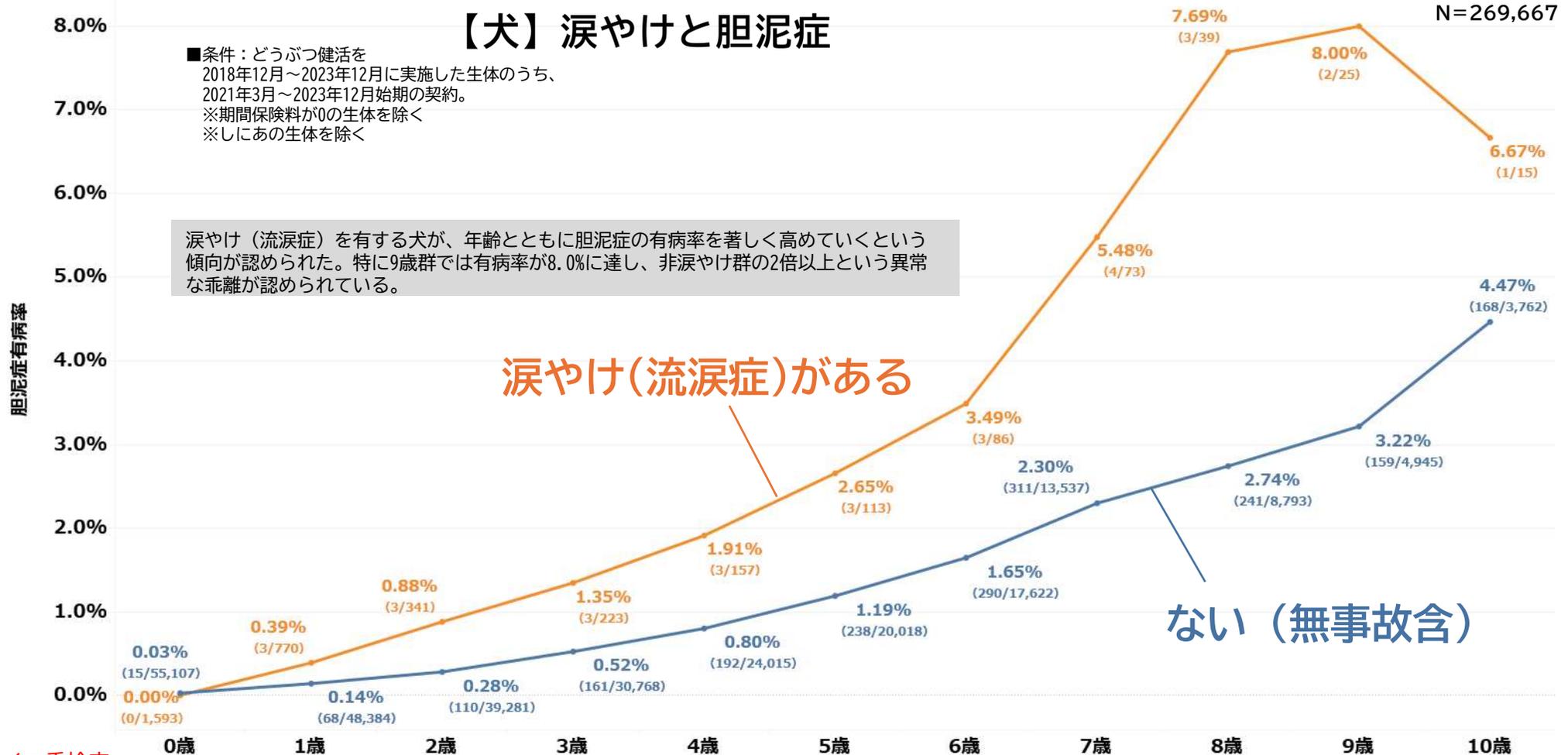


(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

【犬】涙やけと胆泥症

■条件：どうぶつ健活を
2018年12月～2023年12月に実施した生体のうち、
2021年3月～2023年12月始期の契約。
※期間保険料が0の生体を除く
※しにあの生体を除く

涙やけ（流涙症）を有する犬が、年齢とともに胆泥症の有病率を著しく高めていくという傾向が認められた。特に9歳群では有病率が8.0%に達し、非涙やけ群の2倍以上という異常な乖離が認められている。



カイ二乗検定

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳
p値	0.51	0.071	0.039	0.092	0.12	0.15	0.18	0.071	0.060	0.18	0.68
評価	-	†	*	†	-	-	-	†	†	-	-
リスクレシオ	0.00	2.77	3.14	2.57	2.39	2.23	2.12	2.39	2.81	2.49	1.49
信頼区間 (95%下限)	#NUM!	0.87	0.99	0.81	0.76	0.70	0.67	0.87	0.86	0.58	0.20
信頼区間 (95%上限)	#NUM!	8.83	9.94	8.12	7.56	7.08	6.74	6.57	9.15	10.60	11.37

12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン

(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

【犬】 涙やけとブドウ膜炎

N=260,920



カイ二乗検定

	0-2歳	3-5歳	6-8歳
p値	0.50	0.76	0.44
評価	-	-	-
リスクレシオ	1.41	1.35	2.15
信頼区間 (95%下限)	0.52	0.19	0.30
信頼区間 (95%上限)	3.80	9.72	15.47

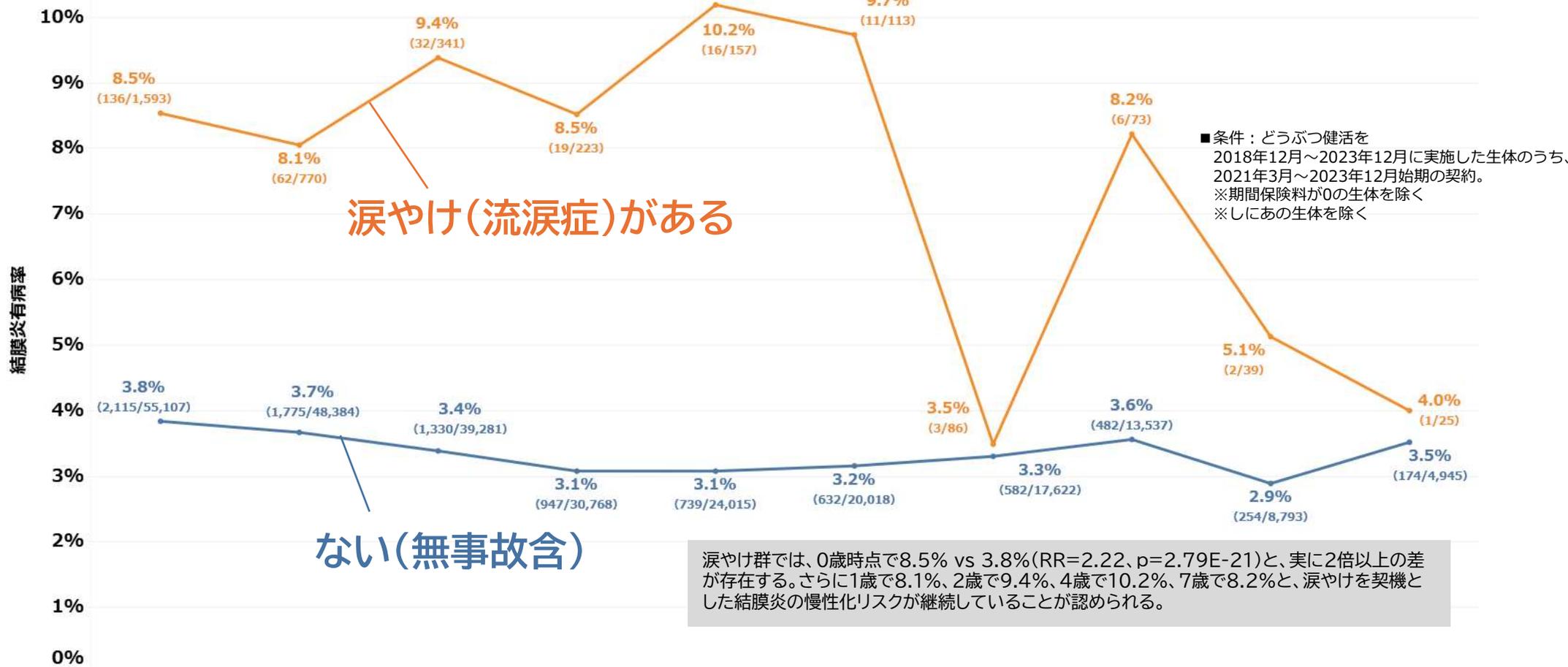
12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン



(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

【犬】涙やけと結膜炎

N=265,890



涙やけ群では、0歳時点で8.5% vs 3.8%(RR=2.22, p=2.79E-21)と、実に2倍以上の差が存在する。さらに1歳で8.1%、2歳で9.4%、4歳で10.2%、7歳で8.2%と、涙やけを契機とした結膜炎の慢性化リスクが継続していることが認められる。

カイ二乗検定

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
p値	2.8E-21	2.0E-10	1.4E-09	3.2E-06	3.3E-07	7.3E-05	0.92	0.032	0.40	0.90
評価	***	***	***	***	***	***	-	*	-	-
リスクレシオ	2.22	2.19	2.77	2.77	3.31	3.08	1.06	2.31	1.78	1.14
信頼区間 (95%下限)	1.86	1.69	1.92	1.73	1.97	1.65	0.33	1.00	0.43	0.15
信頼区間 (95%上限)	2.66	2.86	4.00	4.44	5.57	5.76	3.35	5.33	7.39	8.44

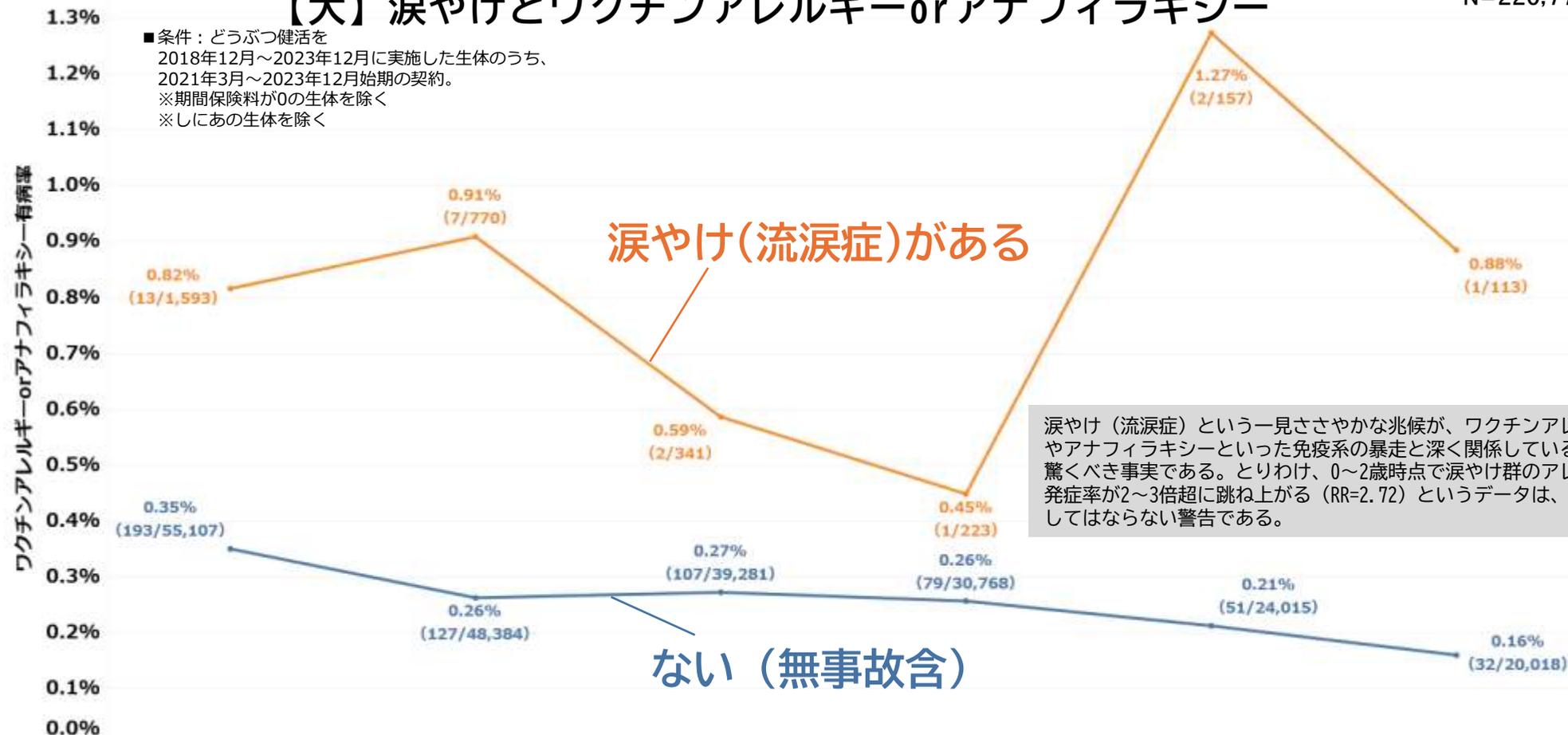
12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン

(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

【犬】涙やけとワクチンアレルギーorアナフィラキシー

N=220,770

- 条件：どうぶつ健活を
2018年12月～2023年12月に実施した生体のうち、
2021年3月～2023年12月始期の契約。
※期間保険料が0の生体を除く
※しにあの生体を除く



涙やけ(流涙症)という一見ささやかな兆候が、ワクチンアレルギーやアナフィラキシーといった免疫系の暴走と深く関係しているという驚くべき事実である。とりわけ、0～2歳時点で涙やけ群のアレルギー発症率が2～3倍超に跳ね上がる(RR=2.72)というデータは、見過ごしてはならない警告である。

カイ二乗検定

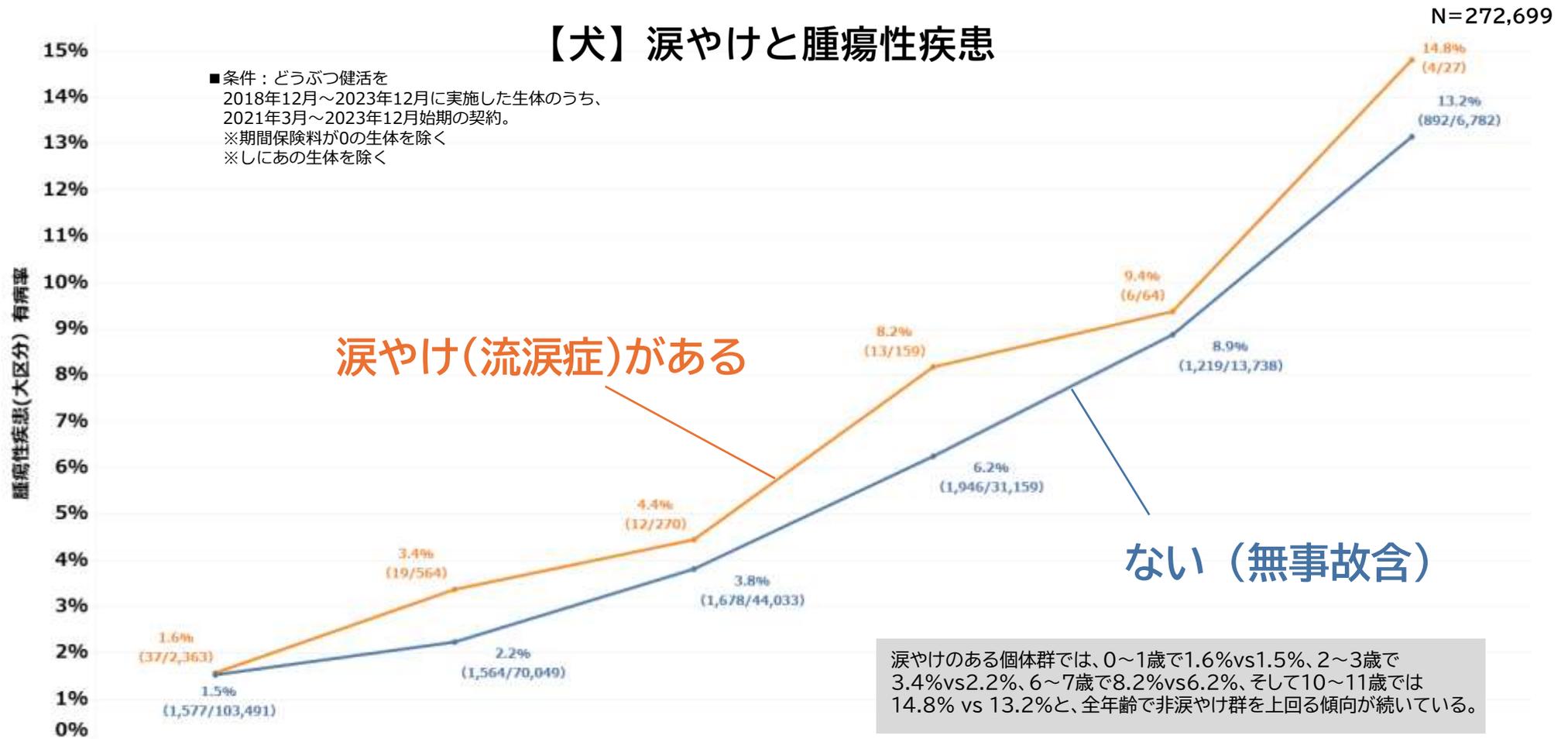
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
p値		0-2歳			3-5歳	
評価		1.8E-06			0.005	
リスクレシオ		***			**	
信頼区間(95%下限)		2.72			3.75	
信頼区間(95%上限)		1.77			1.38	
		4.18			10.14	

12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン



(3) 涙やけとは何か～情報戦の敗北の可視化

【犬】涙やけと腫瘍性疾患



涙やけのある個体群では、0～1歳で1.6%vs1.5%、2～3歳で3.4%vs2.2%、6～7歳で8.2%vs6.2%、そして10～11歳では14.8% vs 13.2%と、全年齢で非涙やけ群を上回る傾向が続いている。

カイニ乗検定

	0-1歳	2-3歳	4-5歳	6-7歳	8-9歳	10-11歳
p値	0.87	0.070	0.59	0.31	0.89	0.80
評価	-	↑	-	-	-	-
リスクレシオ	1.03	1.51	1.17	1.31	1.06	1.13
信頼区間 (95%下限)	0.74	0.95	0.65	0.74	0.46	0.39
信頼区間 (95%上限)	1.43	2.39	2.08	2.31	2.44	3.23

12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン

(4)口臭は“毒ガス”か～死を招く情報代謝産物～

N=156,923

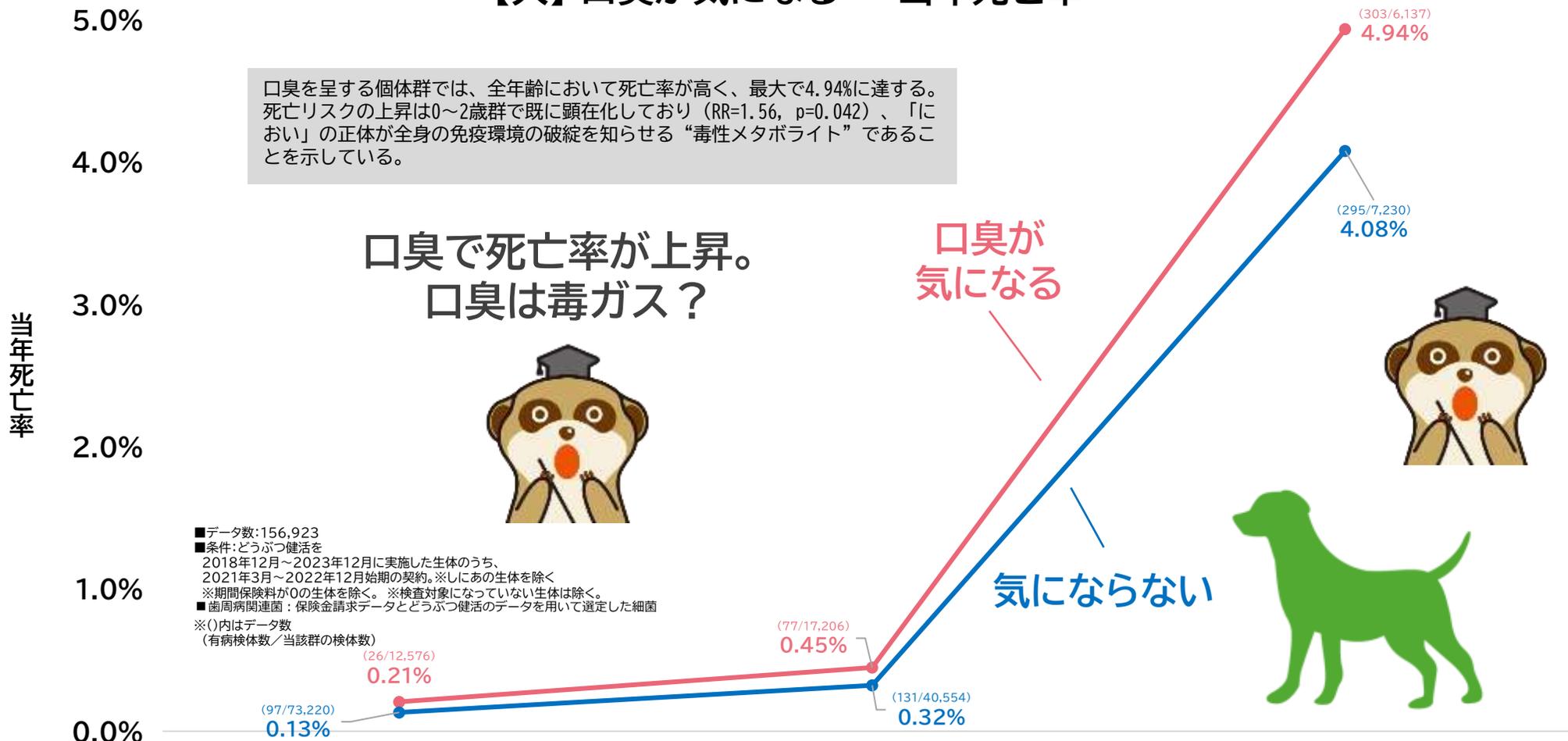
【犬】口臭が気になる × 当年死亡率

口臭を呈する個体群では、全年齢において死亡率が高く、最大で4.94%に達する。死亡リスクの上昇は0～2歳群で既に顕在化しており (RR=1.56, p=0.042)、「におい」の正体が全身の免疫環境の破綻を知らせる“毒性メタボライト”であることを示している。

口臭で死亡率が上昇。
口臭は毒ガス？

口臭が
気になる

気にならない



■データ数:156,923
 ■条件:どうぶつ健活を2018年12月～2023年12月に実施した生体のうち、2021年3月～2022年12月始期の契約。※しにあの生体を除く
 ※期間保険料が0の生体を除く。※検査対象になっていない生体は除く。
 ■歯周病関連菌：保険金請求データとどうぶつ健活のデータを用いて選定した細菌
 ※()内はデータ数 (有病検体数/当該群の検体数)

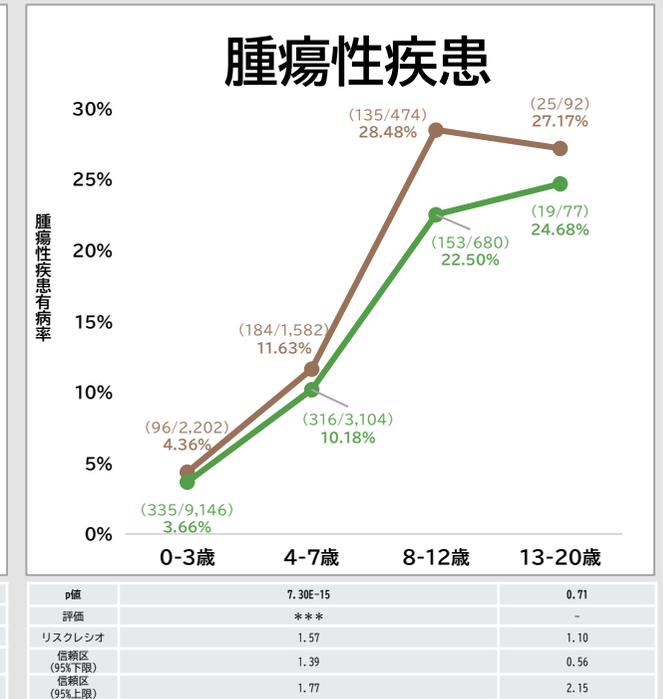
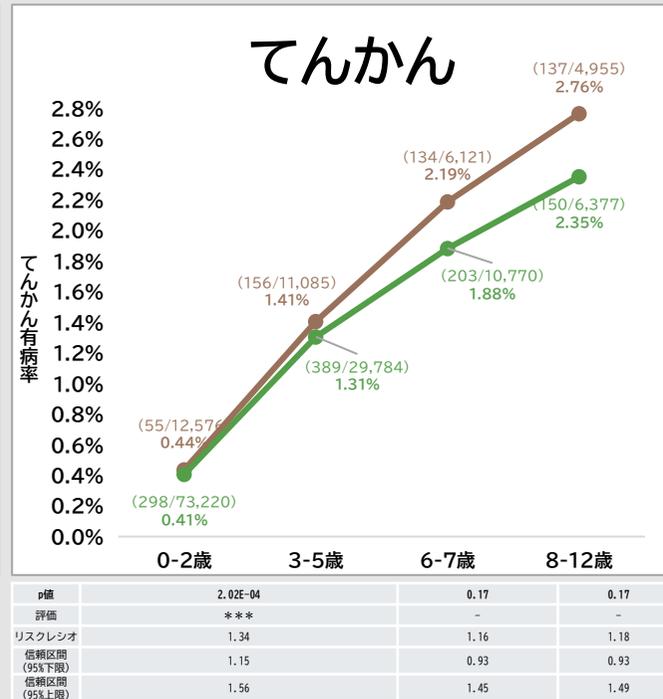
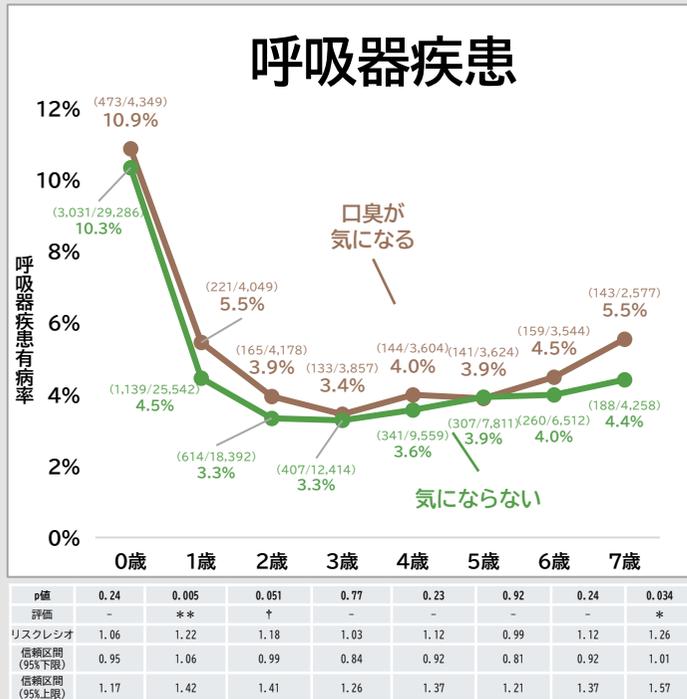
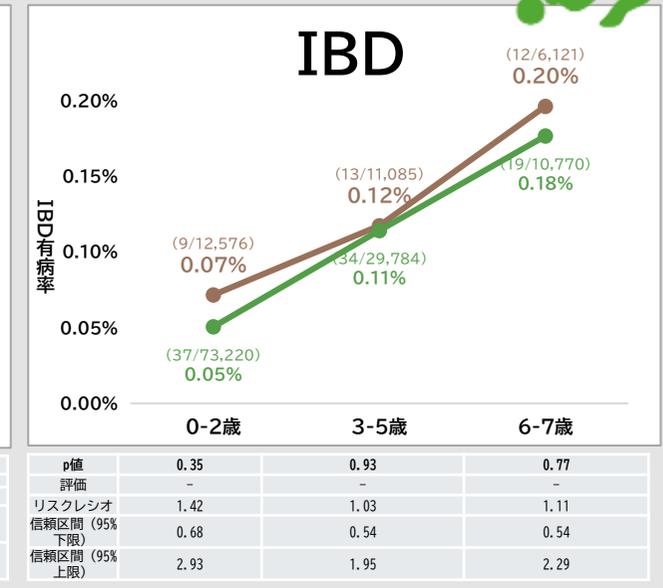
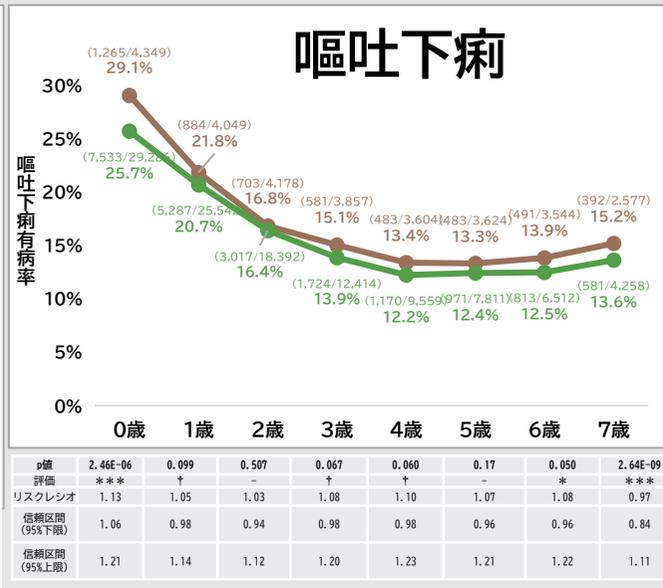
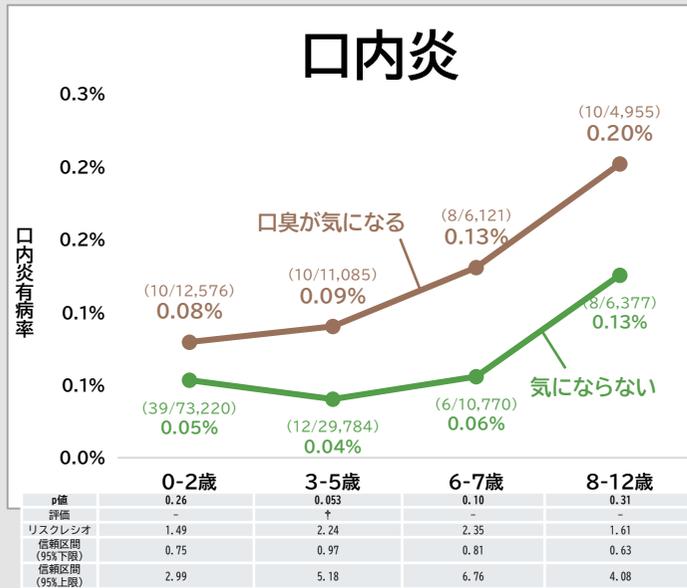
カイ二乗検定

	0-2歳	3-7歳	8-16歳
p値	0.042	0.022	0.017
評価	*	*	*
リスクレシオ	1.56	1.39	1.21
信頼区間 (95%下限)	1.01	1.04	1.03
信頼区間 (95%上限)	2.41	1.84	1.43

12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン



(4)口臭は“毒ガス”か～死を招く情報代謝産物～ 【犬】口臭と各疾患 カイ二乗検定



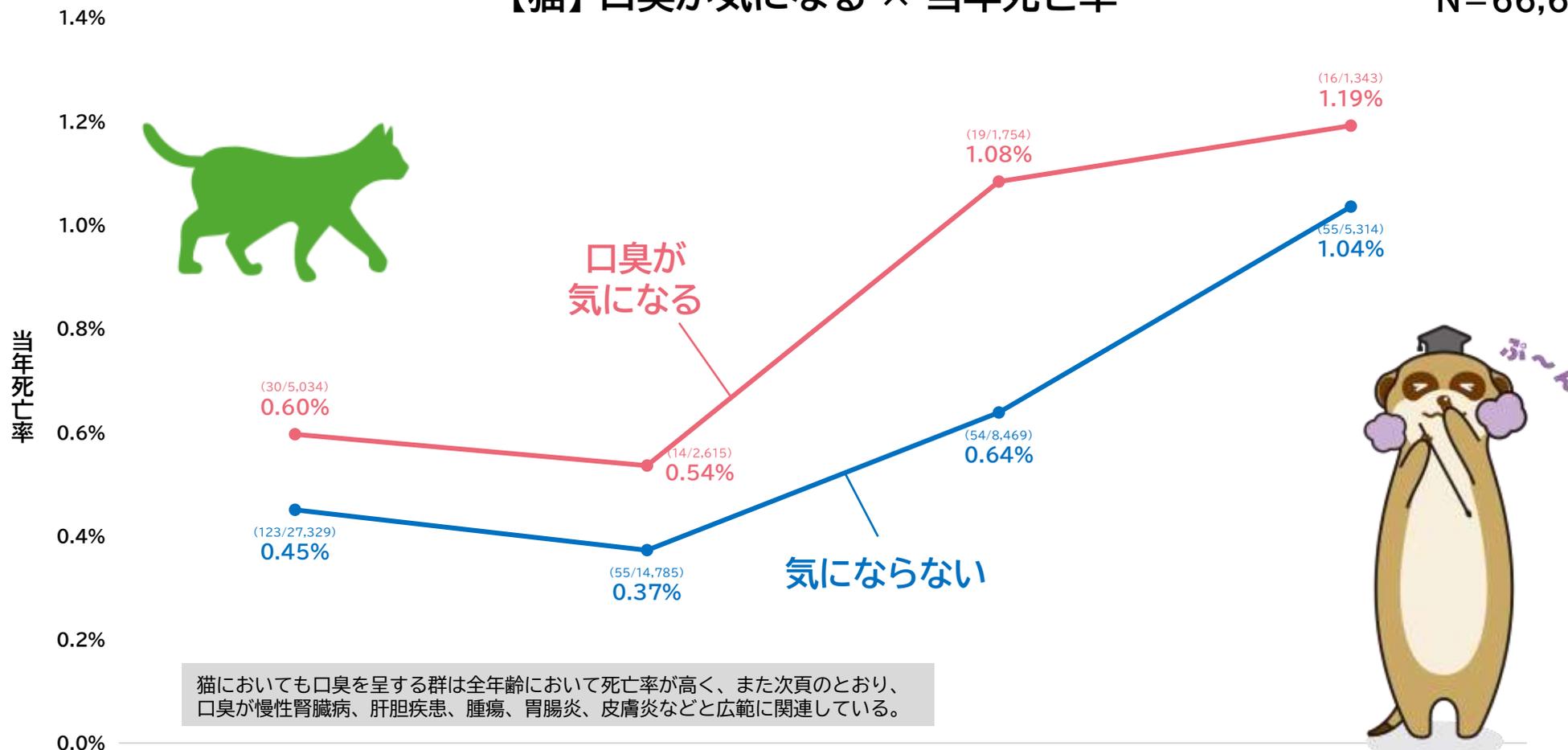
12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン

(4)口臭は“毒ガス”か～死を招く情報代謝産物～

■条件：どうぶつ健活を2018年12月～2023年12月に実施した生体のうち、2021年3月～2022年12月始期の契約。
※しにあの生体を除く※期間保険料が0の生体を除く。

【猫】口臭が気になる × 当年死亡率

N=66,643



猫においても口臭を呈する群は全年齢において死亡率が高く、また次頁のとおり、口臭が慢性腎臓病、肝胆疾患、腫瘍、胃腸炎、皮膚炎などと広範に関連している。

カイ二乗検定

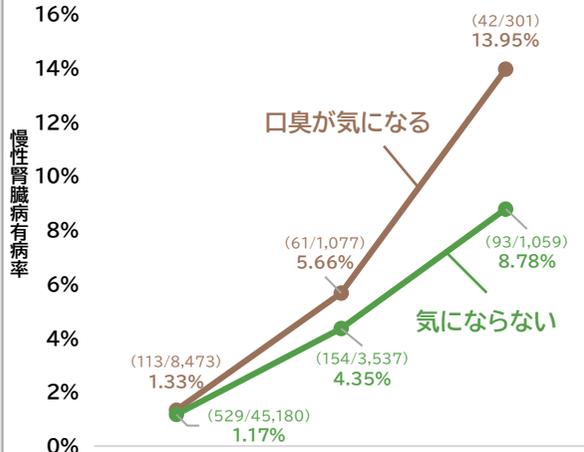
	0-1歳	2-3歳	4-5歳	6-7歳
p値		0-3歳		4-7歳
評価		0.066		0.78
リスクレシオ		†		-
信頼区間 (95%下限)		1.36		1.06
信頼区間 (95%上限)		0.98		0.71
		1.89		1.59

12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン



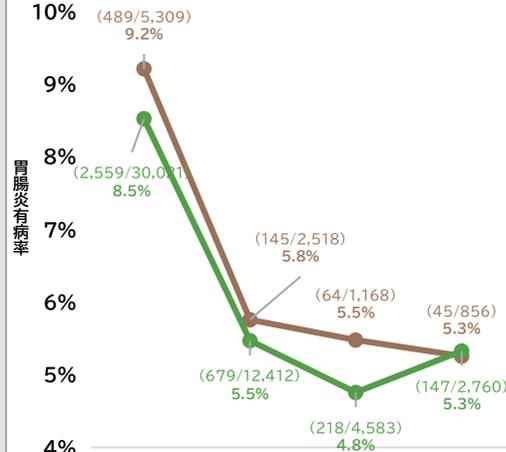
(4)口臭は“毒ガス”か～死を招く情報代謝産物～【猫】口臭と各疾患 カイ二乗検定

慢性腎臓病



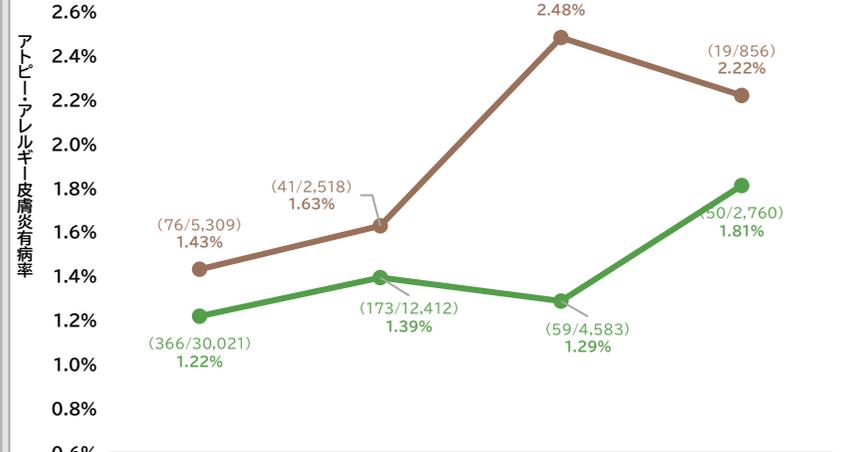
p値	0.21	0.074	0.008
評価	-	↑	**
リスクレシオ	1.14	1.30	1.59
信頼区間 (95%下限)	0.93	0.96	1.08
信頼区間 (95%上限)	1.40	1.76	2.34

胃腸炎



p値	0.10	0.56	0.31	0.94
評価	-	-	-	-
リスクレシオ	1.08	1.05	1.15	0.99
信頼区間 (95%下限)	0.98	0.88	0.87	0.70
信頼区間 (95%上限)	1.20	1.27	1.53	1.39

アトピー・アレルギー性皮膚炎



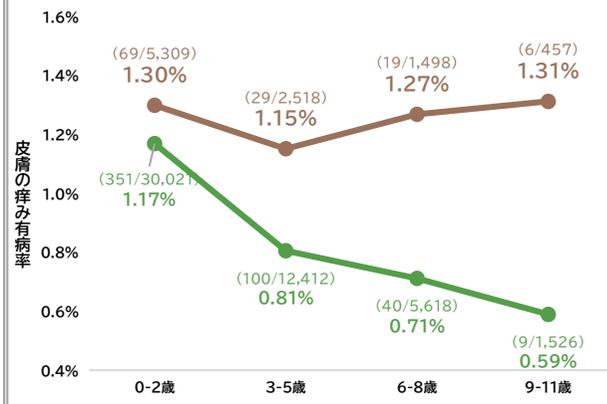
p値	0.20	0.37	0.003	0.45
評価	-	-	**	-
リスクレシオ	1.17	1.17	1.93	1.23
信頼区間 (95%下限)	0.92	0.83	1.23	0.72
信頼区間 (95%上限)	1.51	1.65	3.02	2.09

腫瘍性疾患



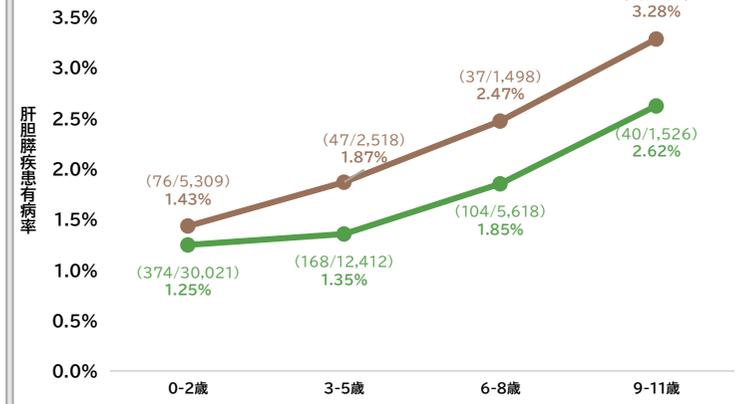
p値	0.37	0.078	0.54	0.74
評価	-	↑	-	-
リスクレシオ	1.19	1.43	1.16	1.06
信頼区間 (95%下限)	0.83	0.96	0.72	0.72
信頼区間 (95%上限)	1.70	2.13	1.85	1.57

皮膚の痒み



p値	0.42	0.087	0.035	-
評価	-	↑	*	-
リスクレシオ	1.11	1.43	1.78	-
信頼区間 (95%下限)	0.86	0.94	1.03	-
信頼区間 (95%上限)	1.44	2.17	3.08	-

肝胆膵疾患



p値	0.27	0.049	0.13	-
評価	-	*	-	-
リスクレシオ	1.15	1.38	1.33	-
信頼区間 (95%下限)	0.90	1.00	0.91	-
信頼区間 (95%上限)	1.47	1.91	1.95	-

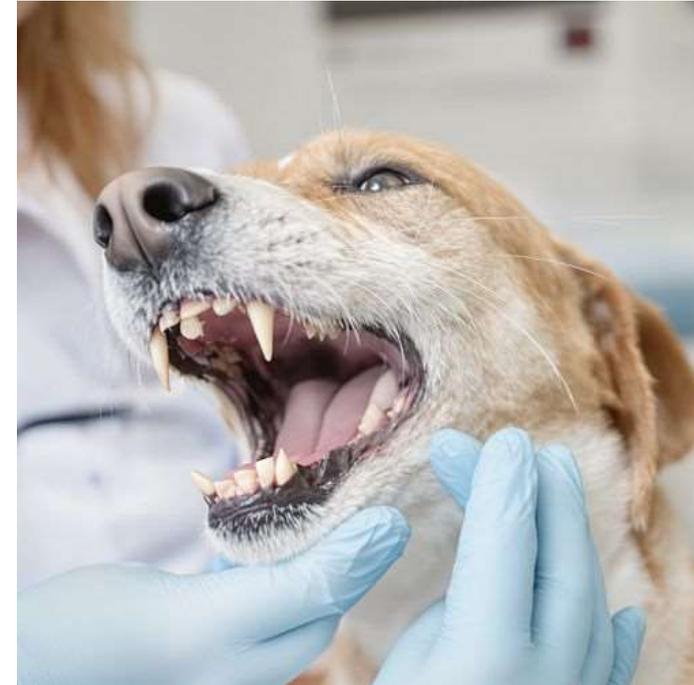
12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン

(5)毛づや・涙やけ・口臭～それは、免疫が発する“最終警告”～

がん・心疾患・腎疾患などの早期発症リスクは、これら一見小さな症状の延長線上に存在する。

本来、免疫は感染症や腫瘍を抑え込む“情報工学的システム”である。

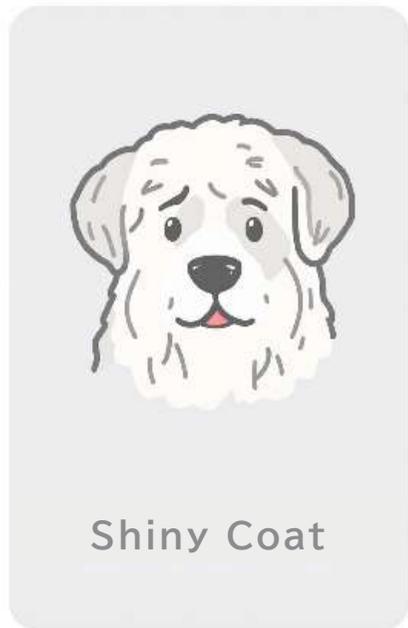
しかし、その情報アップロードの不全、すなわち腸内細菌叢の多様性低下は、免疫の教育・適応・記憶に関わるプロセス全体を劣化させる。その結果として現れる“異常な被毛”“涙”“におい”は、細胞単位での免疫の崩壊を意味している。



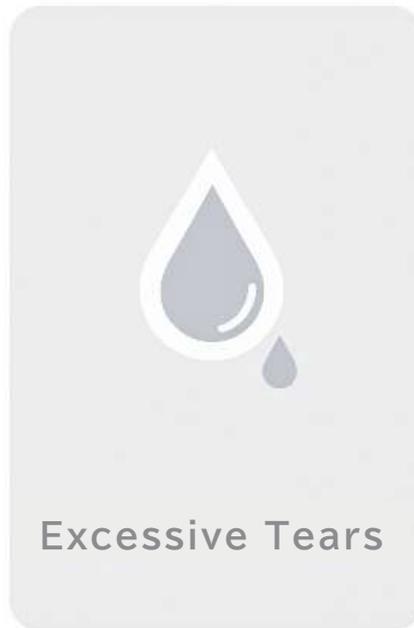
12. 言葉が明確に話せないどうぶつにおける「毛づや・涙やけ・口臭」は病気のサイン

(6) 結論：免疫とは情報であり、情報欠損は命を損なう

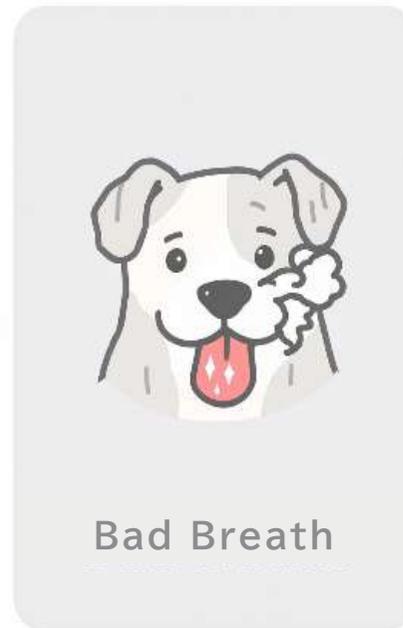
腸内細菌叢の多様性は、生命を守る情報の源泉である。
毛づや・涙やけ・口臭は、情報戦に敗れた免疫が発する最後の警告であり、
それを読み解くことが、予防医療の新たな本質となる。



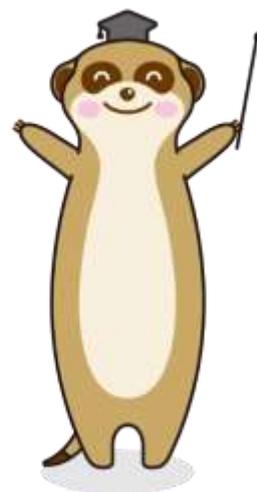
+



+



第五部 「当たり前前を当たり前にし、 予防を実現、未来を創る」



予防施策の実施状況と今後の展望

(1) リスクマネジメントの状況

① アニコム損保のどうぶつ健保はグッドデザイン賞を受賞(「入って健康になる保険」で受賞)



2000年の創業以来、当社は「予防型保険」という独自の理念に基づき、予防を中核に据えた運営を行ってきた。その結果、ペット保険市場全体が損害率の上昇に苦しむ中、唯一、損害率を一定に保っている保険会社グループであり、その思想と商品設計は「入って健康になる保険」として評価され、グッドデザイン賞も受賞。

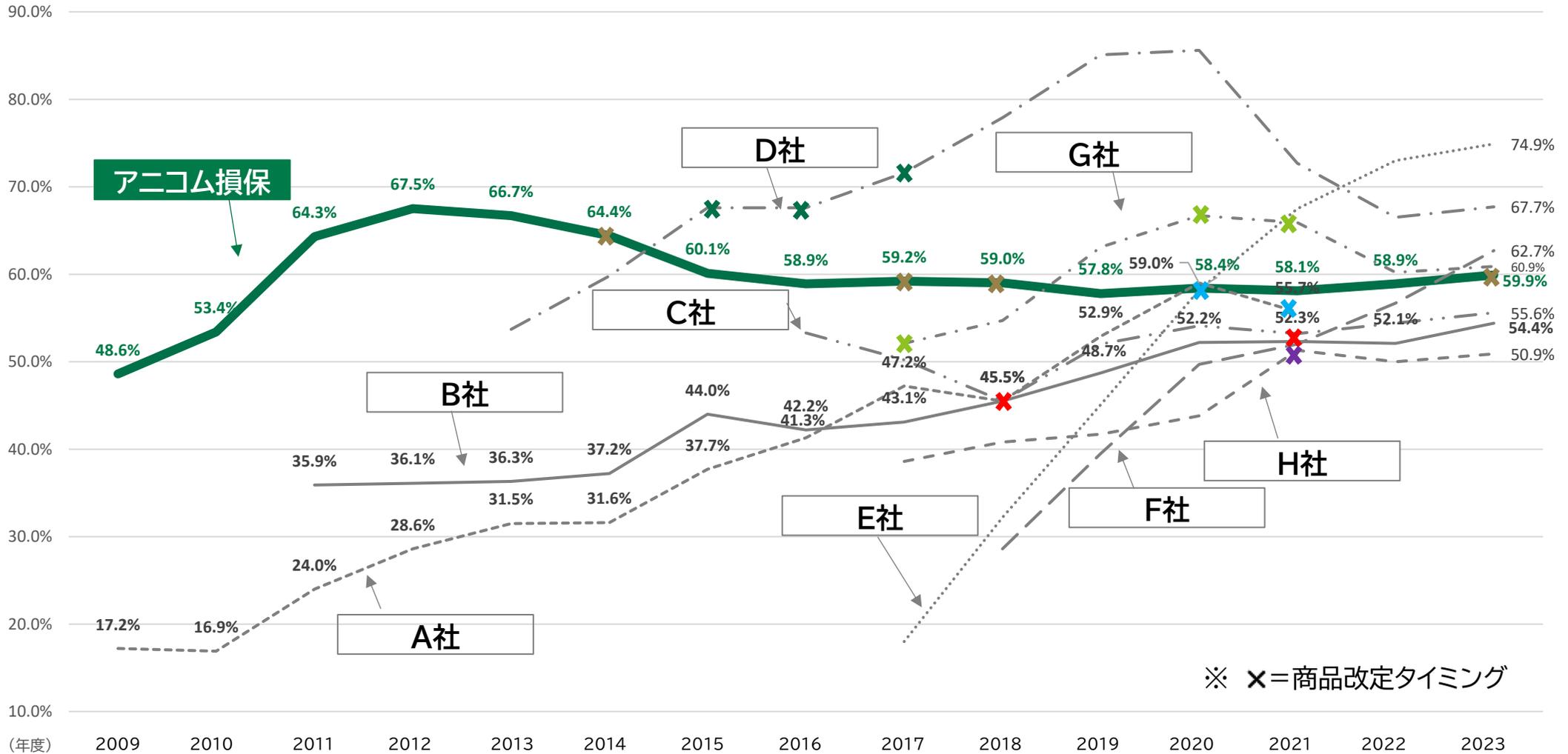
この実績は単なる商品設計ではなく、「免疫の可視化」や「日常的予防介入」などを通じて保険の役割を「補償」から「予防支援」に進化させたことの証であると考えている。

予防施策の実施状況と今後の展望



(1) リスクマネジメントの状況

②数あるペット保険の中でも損害率が安定



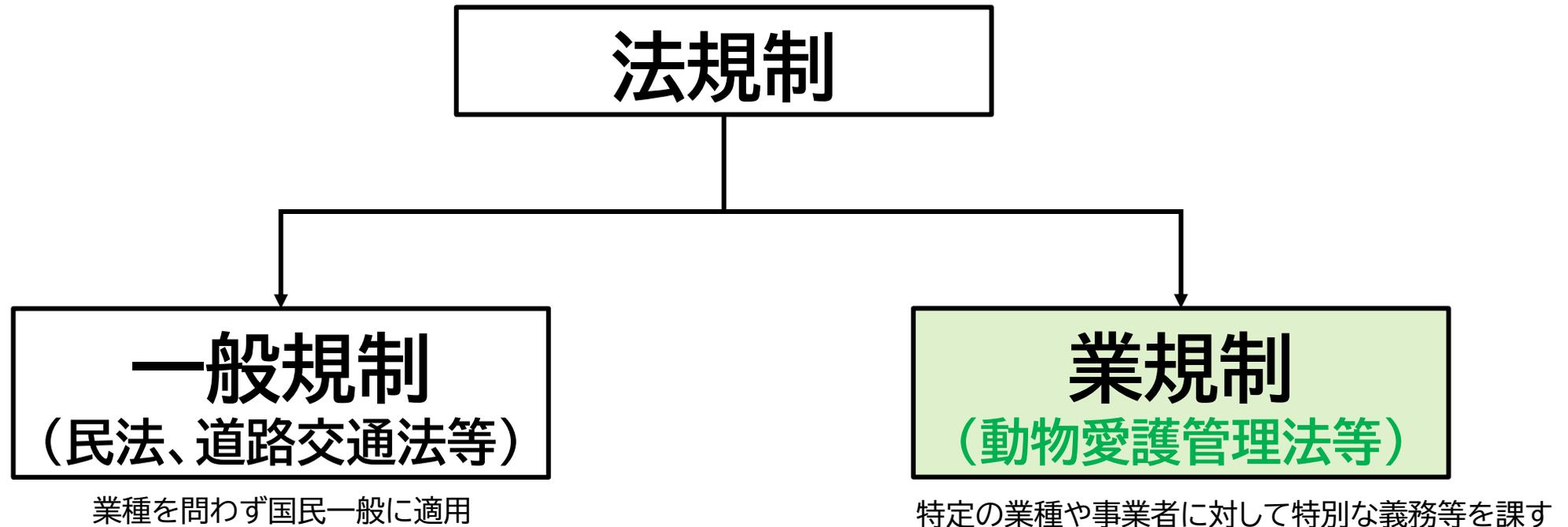
出典
各社ディスクロージャー、決算公告

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

i 事業者が遵守すべき「業規制」

各種事業においては、業界内で起きていることを外部の者が知ることは極めて困難。即ち、極めて高い「情報の非対称性」が存在。消費者は事業者が法令を遵守していることを信じて経済行動を起こしているため、社会全体の円滑な行動を確保していくためには、「業規制」の遵守は絶対的に重要。

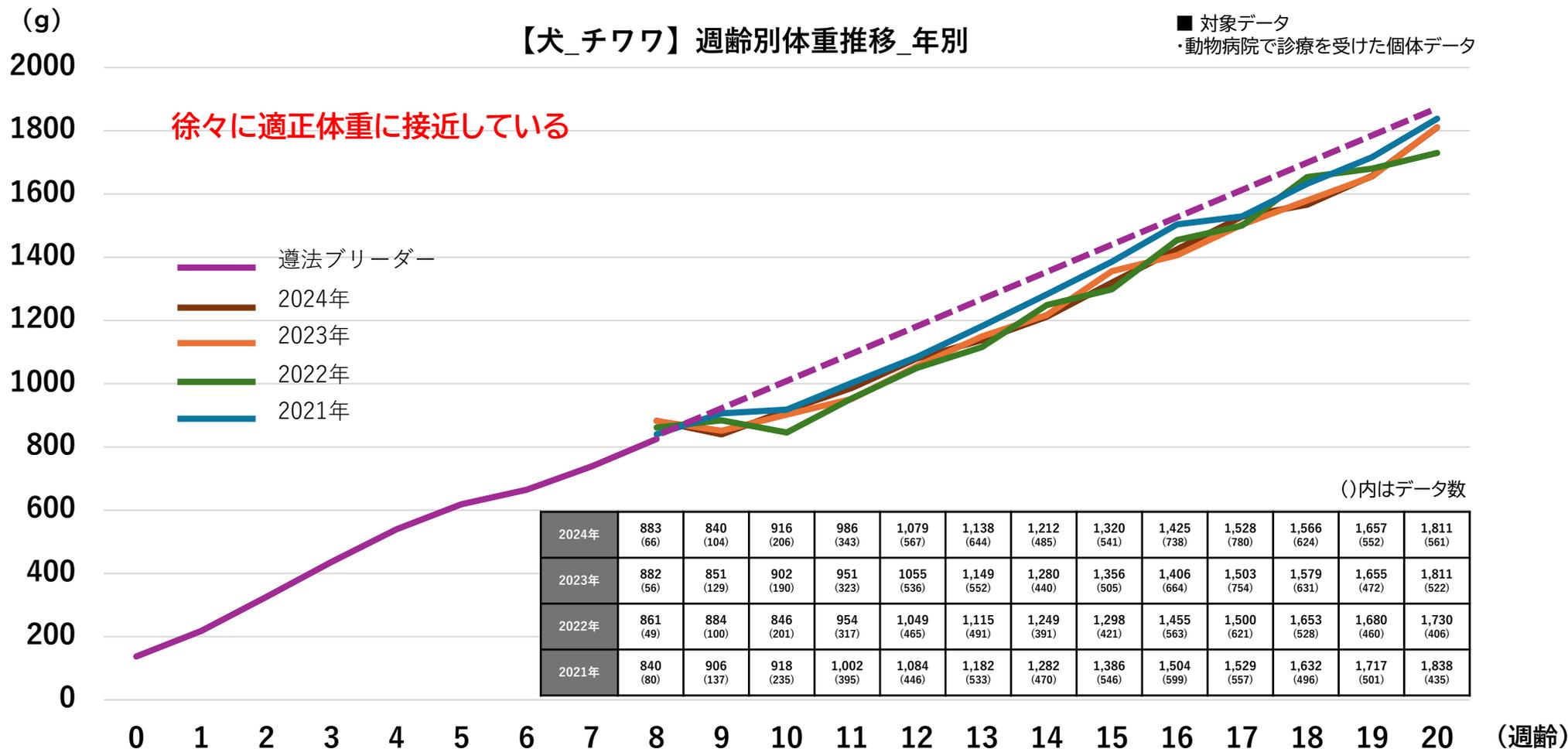


意味がある全ての業規制は厳格に遵守されるべき

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

ii 法令遵守状況の予備的調査

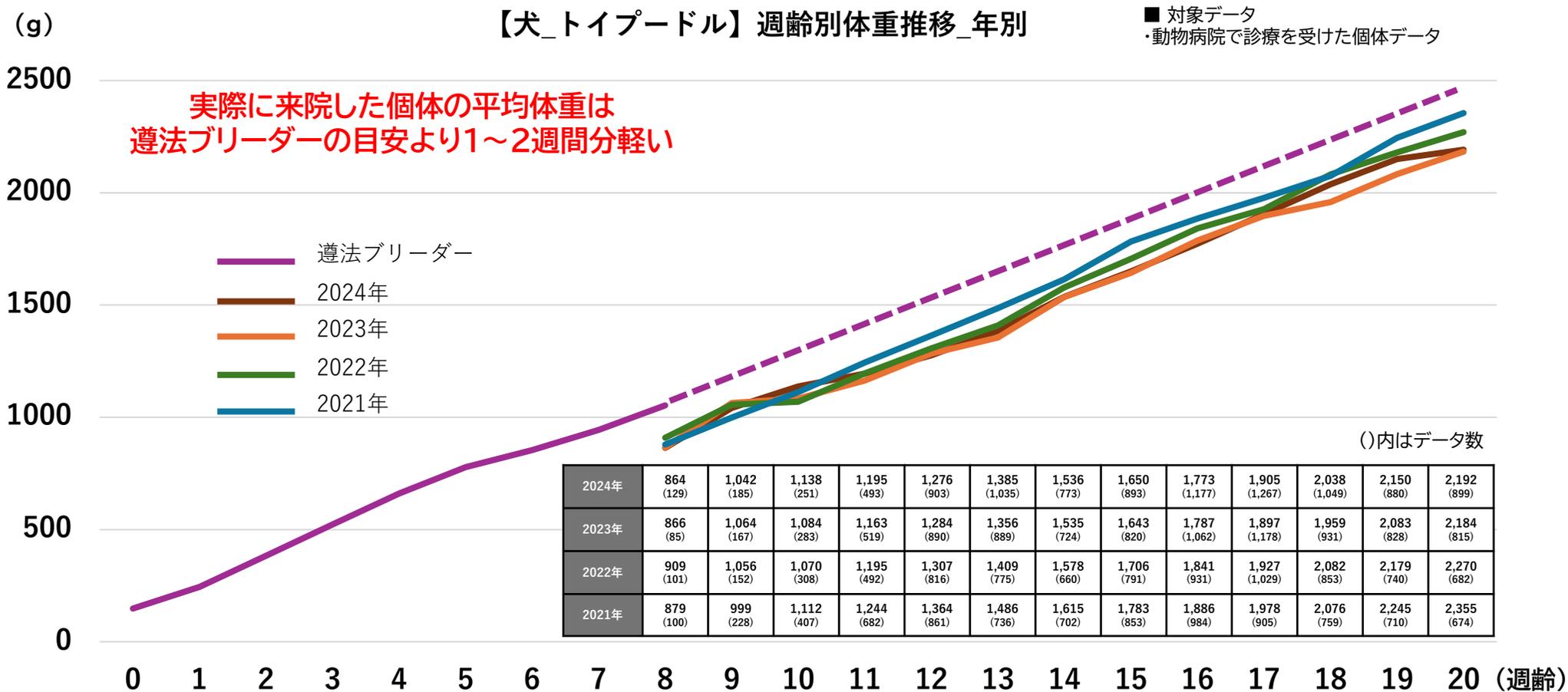


体重は増加傾向にあり、法令遵守体制は改善傾向にある

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

ii 法令遵守状況の予備的調査

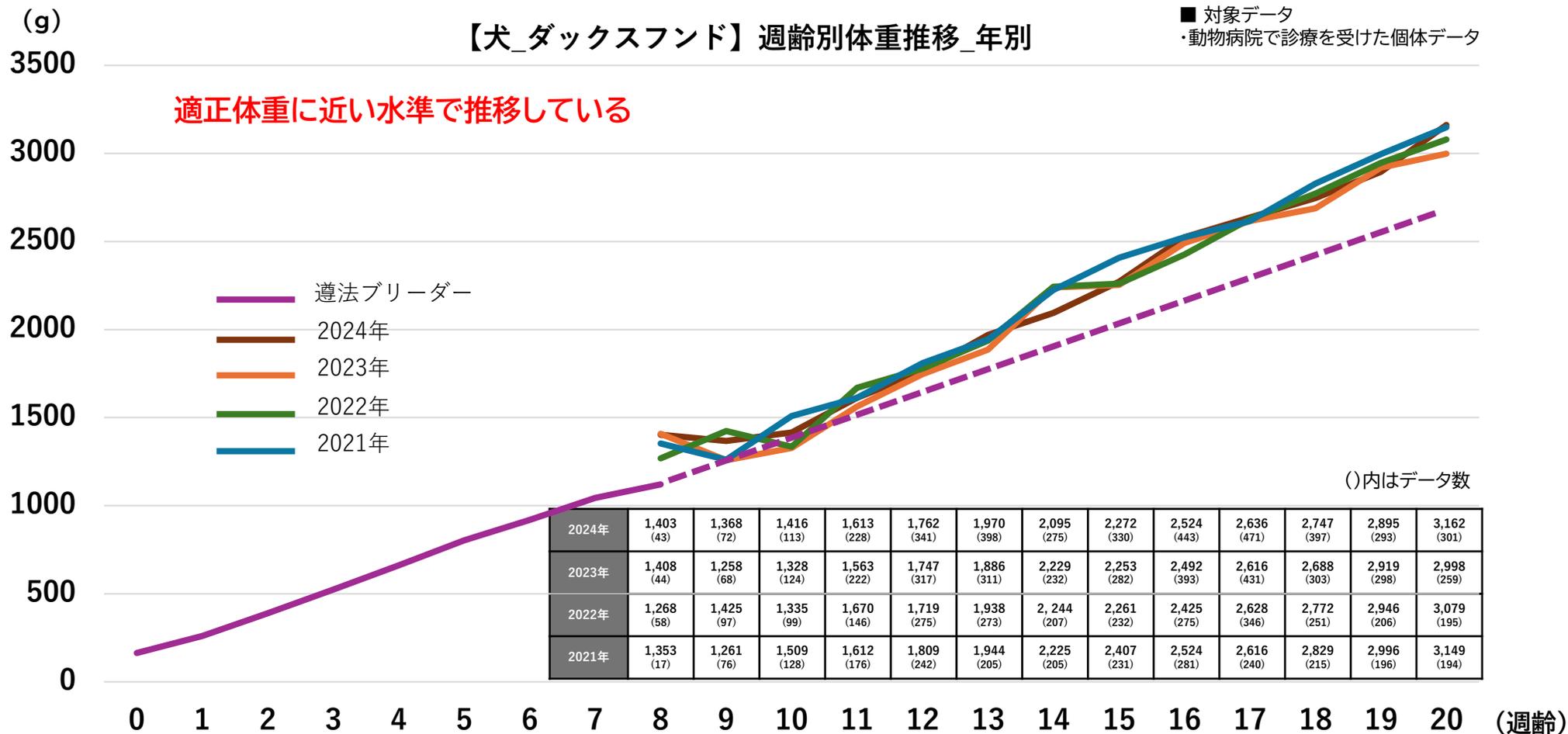


トイプードルでは、幼齢期において未だ低体重傾向が続いていると想定される

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

ii 法令遵守状況の予備的調査



体重は増加傾向にあり、法令遵守体制は改善傾向にある

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

iii 「8週齢規制」の意義と体重による客観的評価指標

■ 一部犬種で継続する低体重傾向

チワワ: リンゴヘッドが特徴で、成長による外見の変化が少ないため、改善傾向が確認される

トイプードル: 「小さい方がかわいい」というニーズにより **低体重傾向が続いている**と想定される

ただし、8週齢規制の遵法傾向が確認されるチワワ・ダックスフンドにおいても適正体重を下回る個体は流通しており、いまだ改善余地がある状況。



■ 遵法意識の差が生む不公平な競争環境

環境省による一斉調査以降、8週齢規制について、多くのブリーダーは対応している一方で、一部では遵守されていないケースも見受けられ、**「守った(遵法した)ものが損をする」**構造が存在。

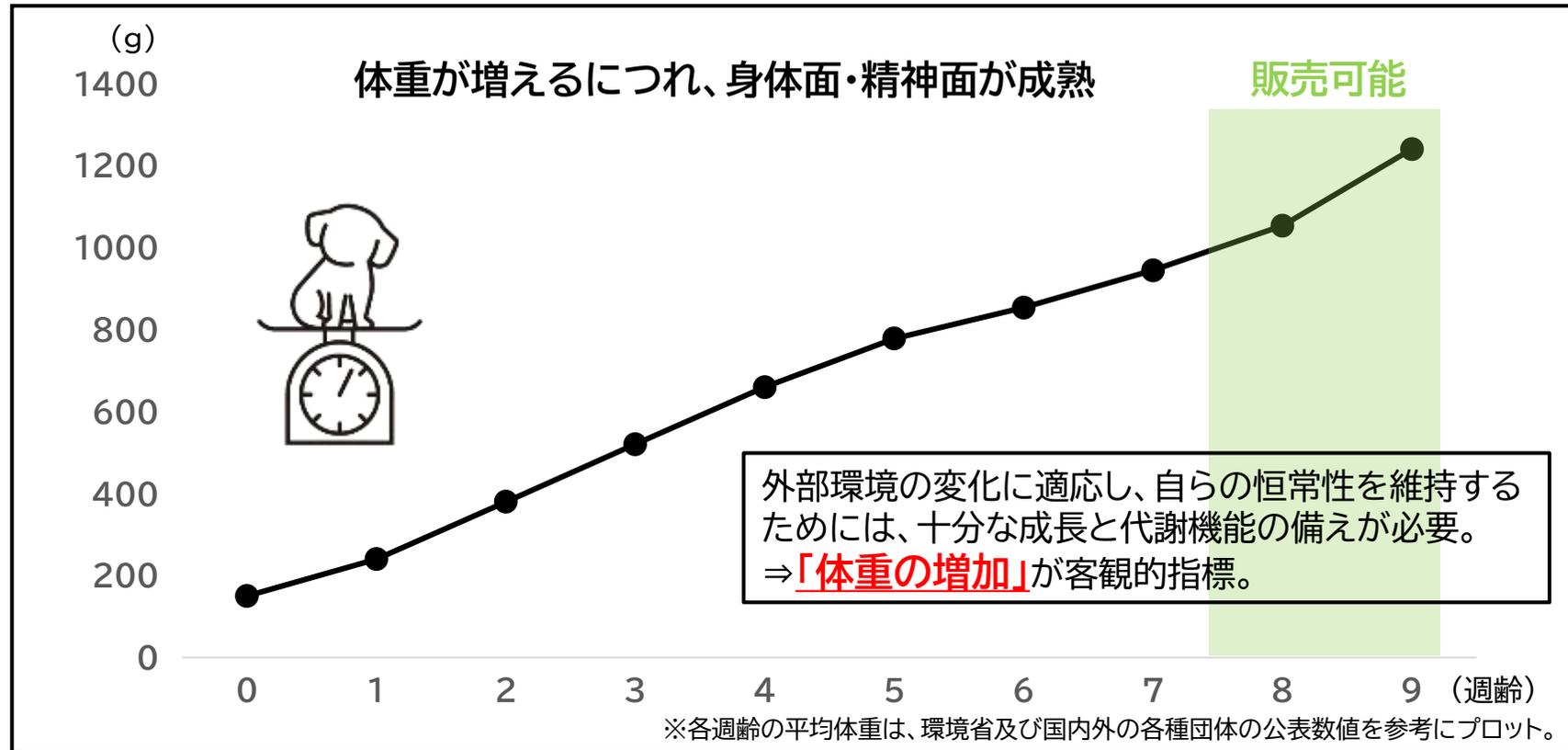


環境省とペット業界が連携し、動物愛護と法令遵守を推進することで、
ペット業界の健全化と企業価値のさらなる向上を図る。

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

iv 発育状況と疾病罹患の関係性



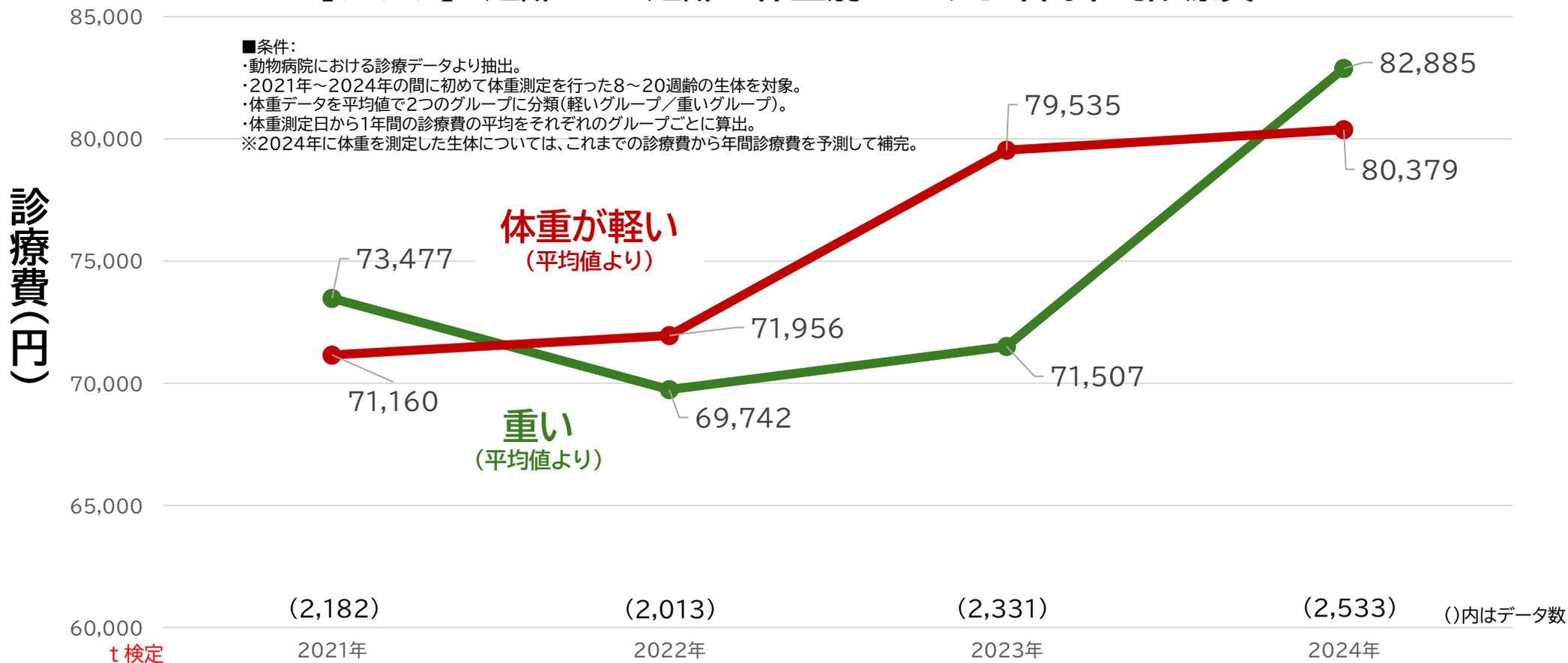
体重の軽重は、その後の疾病罹患リスクとの関連が示唆される。
このため、身体的に未成熟な段階での流通を防止する8週齢規制の遵守が、幼齢動物の健全な成長において極めて重要。

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

iv 発育状況と疾病罹患の関係性

【チワワ】8週齢～20週齢の体重別における年間平均診療費



	2021年	2022年	2023年	2024年
P値	0.76	0.15	0.49	0.78
評価	-	-	-	-

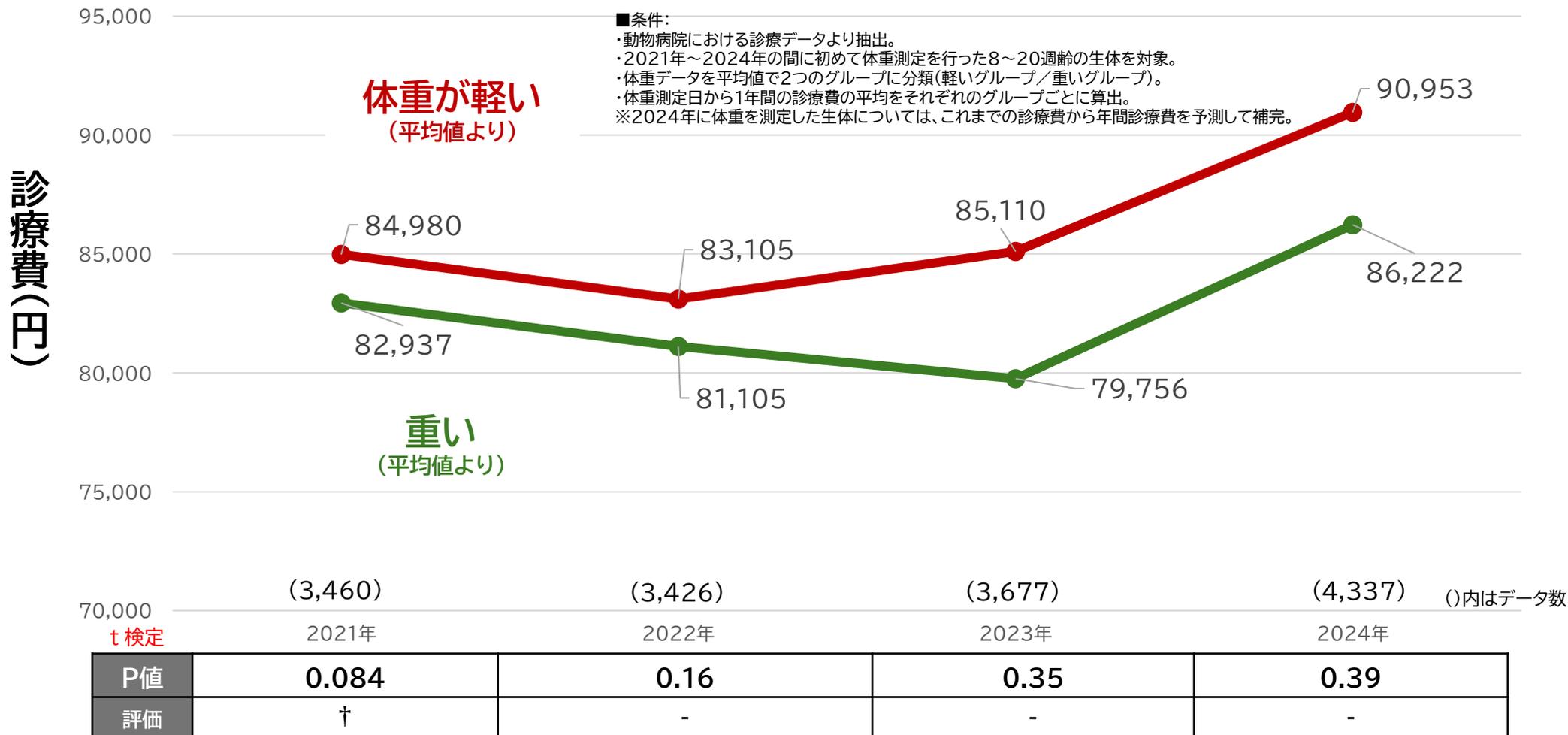
体重が軽い群ほど疾病発症リスクが高い傾向

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

iv 発育状況と疾病罹患の関係性

【トイプードル】8週齢～20週齢の体重別における年間平均診療費



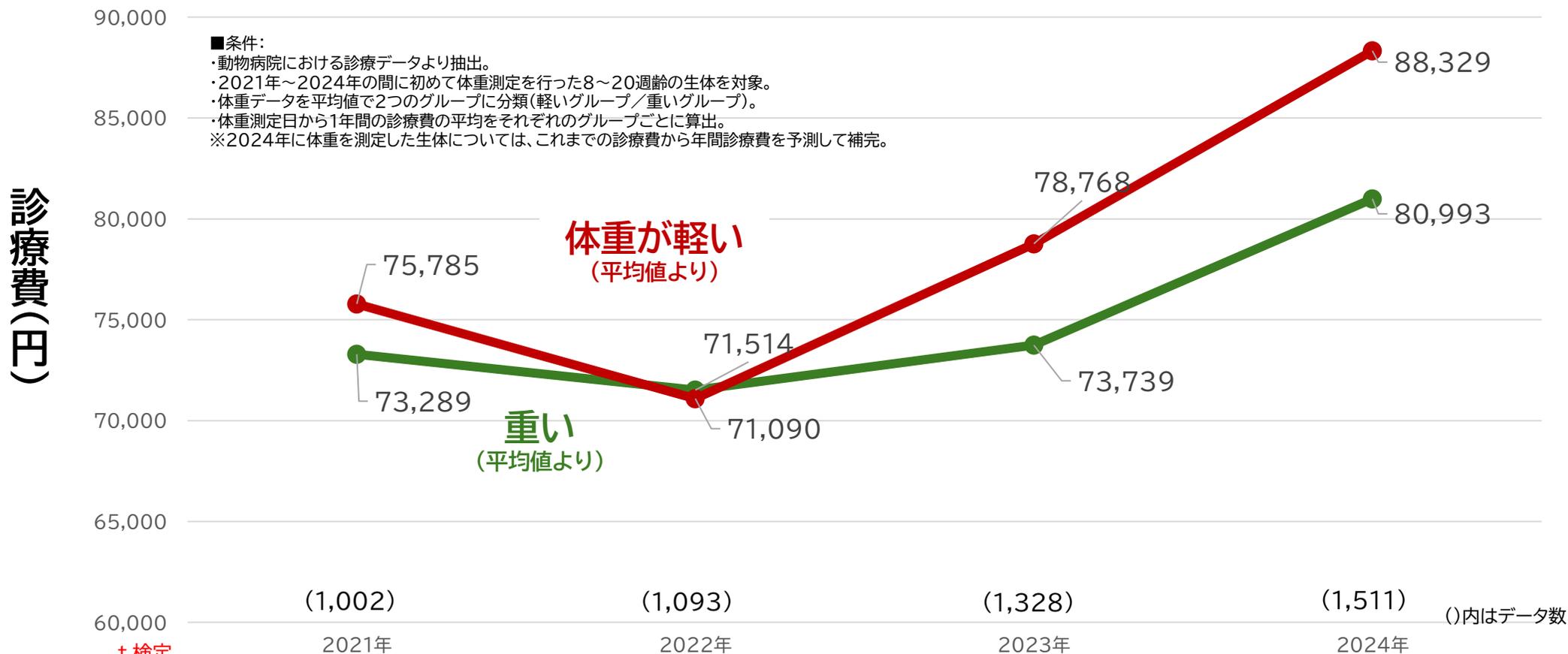
体重が軽い群ほど疾病発症リスクが高い傾向

(1) リスクマネジメントの状況

③ 動物愛護法遵守推進サポートによる効果の状況

iv 発育状況と疾病罹患の関係性

【ダックス】8週齢～20週齢の体重別における年間平均診療費



t検定		2021年	2022年	2023年	2024年
P値		0.58	0.84	0.25	0.53
評価		-	-	-	-

体重が軽い群ほど疾病発症リスクが高い傾向

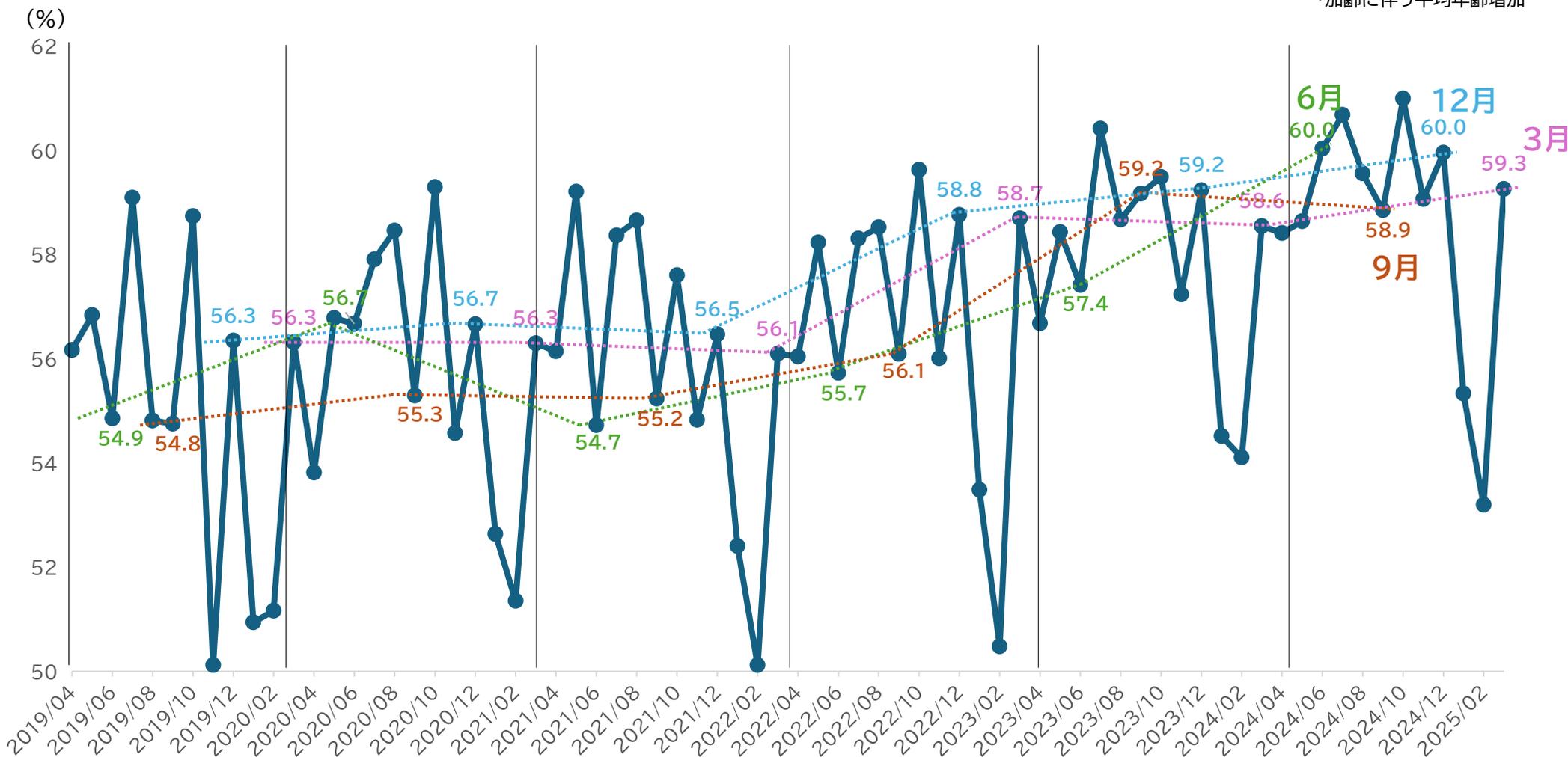
予防施策の実施状況と今後の展望

(1) リスクマネジメントの状況



④ 損害率の上昇に歯止めがかかりつつある

EI損害率 月次 原系列



月次EI損害率より参照
以下未補正
・保険料改定
・うるう年(2020年、2024年)
・加齢に伴う平均年齢増加

コロナ禍や保険料改定の影響を踏まえた慎重な解釈が求められるものの、損害率管理には一定の成果が現れつつあると考えている。

損害率の上昇抑制によりコンバインド・レシオが改善。削減された費用は、AI・先進医療人材の確保、賃金引上げ、株主還元に充当。

予防施策の実施状況と今後の展望

(2) 犬猫における歯周病、口腔ケアの状況

①犬・猫は0歳から歯周病が多い

犬・猫は口腔内の**抗菌ペプチド「リゾチーム」**が少ない。
さらに、ヒトにおいては、歯周病は高齢期の疾患と誤解されてきたため、犬・猫における口腔ケアは遅れをとってきた。

しかし近年では、動物病院やペットショップ、ブリーダー、トリミングサロンなどでも、**お口の健康が健康維持や疾患の治療に大切**であることへの理解が広がりつつある。



予防施策の実施状況と今後の展望

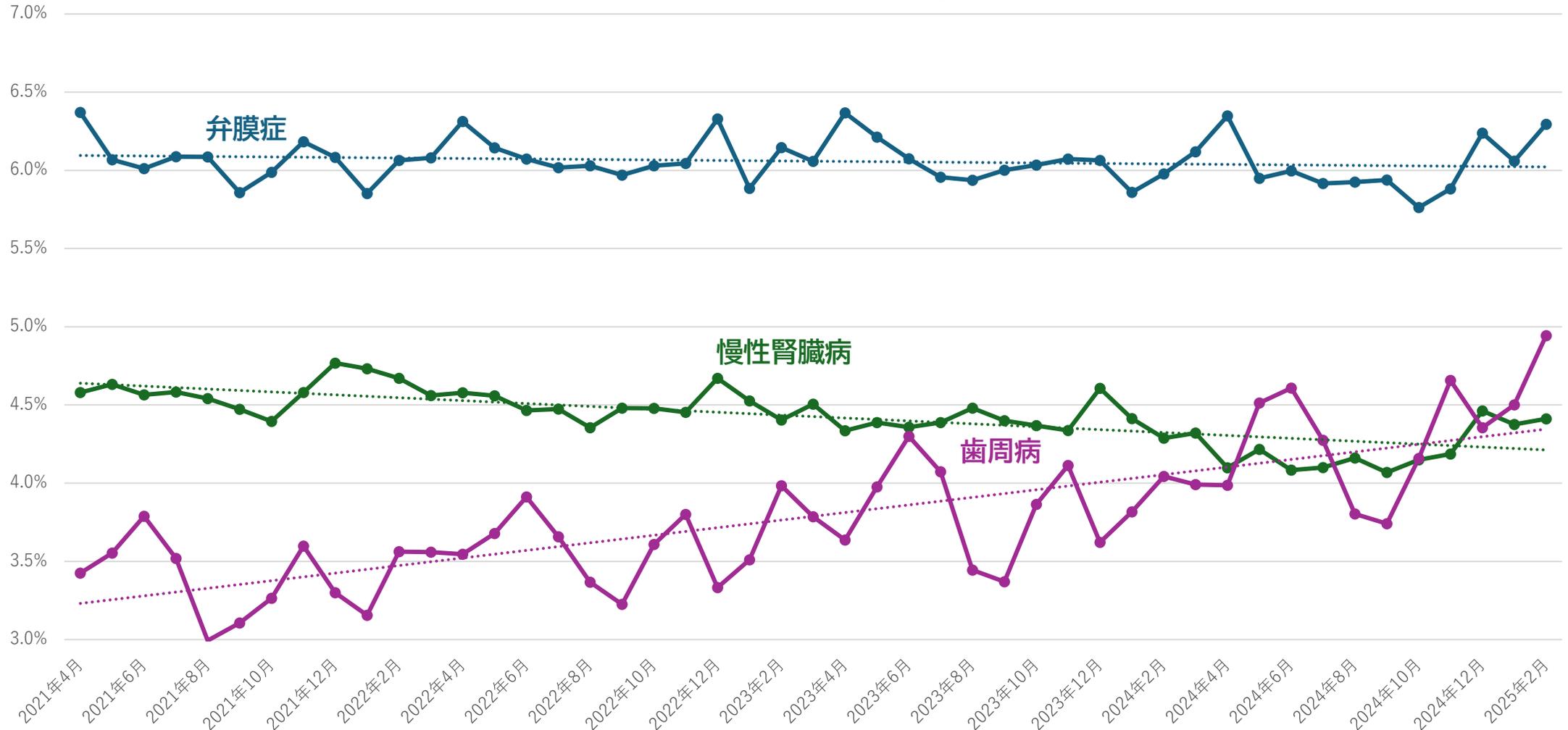


(2) 犬猫における歯周病、口腔ケアの状況

②その結果、歯周病関連の請求は拡大、慢性腎臓病や弁膜症は減少傾向

【犬・猫】保険金の疾患別占有率
(弁膜症、慢性腎臓病、歯周病)

・診療開始日：2021年4月1日～2025年2月28日 のデータを用いて作成。
 ・優先診療名より、弁膜症、慢性腎臓病、歯周病、を抽出。
 ・該当種別：犬・猫
 ・包括契約を対象から除外。
 ・契約始期前の取消および、クーリングオフになった契約を除外。

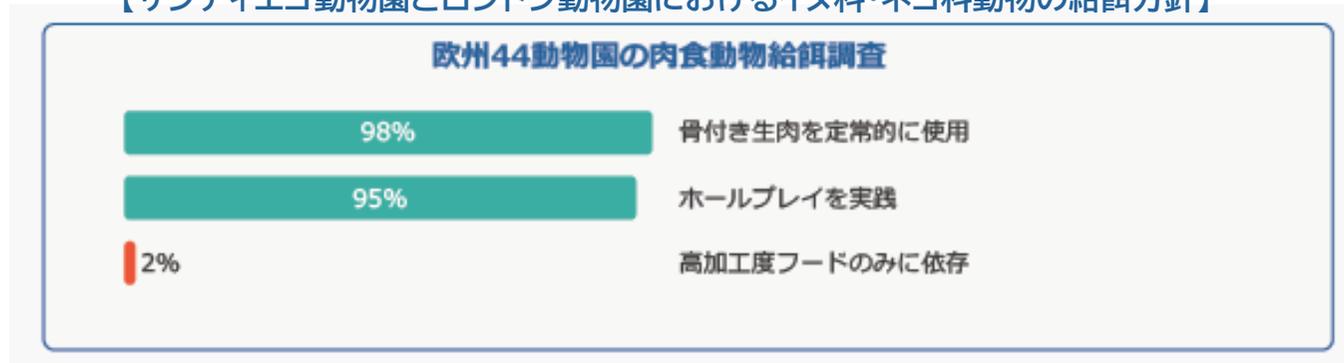


(3) 毎日高加工度食ばかり食べている生物は先進国の犬・猫だけ

①現代の犬・猫では腸内細菌叢の多様性が低いと考えられる理由

動物園や国定公園のイヌ科・ネコ科動物には、健康維持のため毎日異なる**様々な食材**がローテーションで与えられるのが当たり前とされている。

【サンディエゴ動物園とロンドン動物園におけるイヌ科・ネコ科動物の給餌方針】



<参考文献> Kleinlugtenbelt P. Large Carnivore Husbandry in European Zoos. Univ. of Zurich; 2023.



さらに、都市の近代化以前においては、土・草や虫を口にすることもあり、**自然との接触**を通じ、腸内細菌叢の多様性が保たれていた可能性がある。

しかし、近代化の進展により自然との接触が減り、獲得免疫の成熟に必要な多様な自然抗原の獲得が難しくなったと考えられる。

(3) 毎日高加工度食ばかり食べている生物は先進国の犬・猫だけ

②腸内細菌叢の多様性の重要性の広まり



腸内細菌叢は、皮膚の健康維持に必要なセラミドの誘導に関与するだけでなく、腸の運動性や病原性細菌の抑制に働く酪酸などの短鎖脂肪酸の産生にも深く関わっている。

この酪酸は、獲得免疫が持続的に機能するために欠かせない免疫記憶の維持にも重要な役割を果たしている。



さらに、酪酸をはじめビオチンやビタミンKなどの生命維持に必要な物質は、体内で生合成できず、そのほとんどを多様な腸内細菌叢による協働的な産生に依存している。

これらの理解が先進的な動物病院を通じ、進みつつある。

これにより、ペットショップやトリミングサロンでも、日々のフードに食の多様性を追加することが普及しつつある

(4) 適切な口腔ケアと多様な食の摂取は疾患予防や疾患の進行・悪化予防に繋がる可能性がある 腸内細菌叢の多様性が免疫と病気の予防に与える影響

適切な**口腔ケア**と**多様な食の摂取**は疾患予防や疾患の進行・悪化予防に繋がる可能性がある。

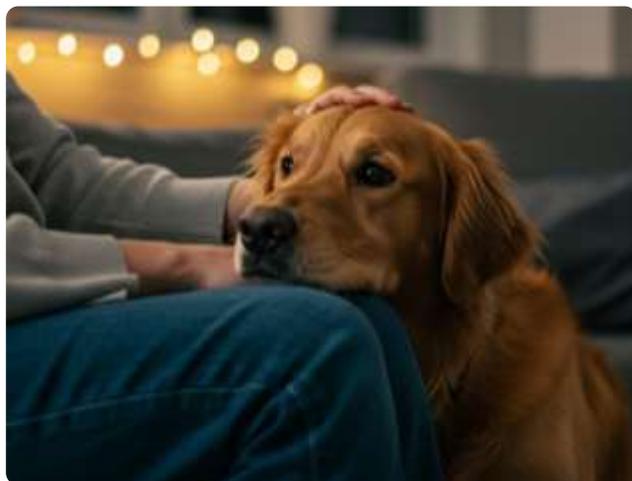


腸内細菌叢の多様性が損なわれると、病原性細菌の増殖や、免疫組織である二次リンパ器官の炎症につながり、B細胞の成熟障害や全身免疫の疲弊を引き起こす要因となる。



口腔ケアと多様な食の摂取は、疾患後でも腸内細菌叢の多様性を改善し、健康回復に寄与する可能性がある。

(5) 予防等の推進をベースとした更なる価値創造に向けて



AIを活用し、嘔吐・下痢・血便、毛づや、涙やけ、口臭、どうぶつの笑顔といったサインを可視化

従来見逃されがちだった慢性微小炎症による免疫低下の兆候を捉え、病気の診断から免疫診断・治療までの高度化を支援する。これにより、早すぎる別れを減らしながら、収益基盤のさらなる強化を目指す。



さらには、言葉を持たないどうぶつたちの「元気喪失」や「原因不明のかゆみ」といった不定愁訴や慢性微小炎症の予防・治療をサポートしていくことで、将来的な高度医療ニーズの拡大も見込まれる。

ヒト医療等の貢献にも資し得るよう、人財投資を強化

(6) 獣医療におけるAIの活用と手術支援ロボット

世界展開と医療革新

目的

手術支援ロボットを日本は勿論、全世界にいち早く広め、世界の医療や人類の身体能力の驚異的拡張で社会を豊かにする。

最先端の高度獣医療を提供する動物病院『JARVISどうぶつ医療センター Tokyo』を2025年9月頃に品川にて全面開業いたします - 損保 ニュースリリースペット保険のご契約は【アニコム損保】



※この画像は医療機器のイメージであり、実在の製品を示すものではありません。

動物医療においてもロボット・AIの急激な活用が期待されている。これらに適宜適切に投資を行い、更なる価値創造を目指すことで、飼い主様、動物医療やペット業界の関係者の皆様、そして、株主の皆様方の負託に応えたいと考えている。

